

37

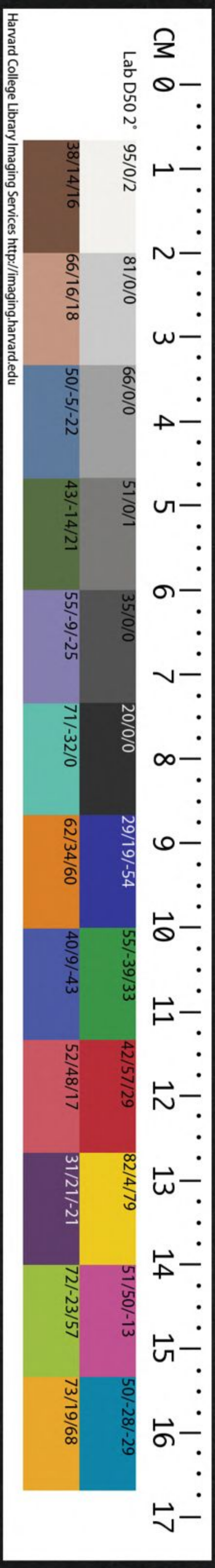
CHINESE - JAPANESE LIBRARY OF
HARVARD - YENCHING INSTITUTE
AT HARVARD UNIVERSITY
OCT 10 1952

T2512/2543B

通鑑綱目

卷六

三十一



資治通鑑綱目卷第三十六

尚書書局

起甲辰陳後主至德二年隋文帝開皇四年○盡丁卯隋陽帝夫業三年凡二十七年

陳至德三年隋開皇四年春正月朔日食○梁主入朝于隋

隋頒甲子元曆

張賓劉暉等所造也

二月突厥達頭可汗降隋

夏四月隋伐吐谷渾敗之

隋將軍賀婁子幹發五州兵擊吐谷渾克之隋主以隴西頗被寇掠而俗不設村塢令子幹勒民為堡仍營田積穀子幹上書曰隴西河右土曠民稀邊境未寧不可廣佃比見屯田之所獲少費多虛

哈佛大學哈佛燕京圖書館珍藏印

後人功卒逢踐暴且隴右之民以畜牧為事若更屯聚彌不自安但使鎮戍連綿相望民雖散居必謂無慮

五月陳以江總為僕射

六月隋作廣通渠

隋主以渭水多沙深淺不常漕者苦之詔宇文愷鑿渠引渭自大興城東至潼關三百餘里名廣通渠漕運通利關內賴之

秋八月陳將軍夏侯苗叛降于隋隋主弗納

陳將軍夏侯苗請降於隋隋主以通和不納

九月隋詔公私文翰並宜實錄

隋主不喜辭華故有是詔時泗州刺史司馬如文表華艷詔付所司治罪治書侍御史李諤亦上書曰魏之三祖崇尚文詞遂成風俗江左齊梁其弊爾其競一韻之奇爭一字之巧連篇累牘不出月露之形積案盈箱唯是風雲之狀世俗以之高朝廷以之擢士以儒素為古拙以詞賦為君子故其文日繁其政日亂良由奔大聖之軌模構無用以為用也今朝廷雖有是詔而州縣仍踵弊風躬仁孝之行者不加收齒工輕簿之藝者舉送天朝績加采察送臺推勅又言士大夫矜伐干進無復意耻乞明加罪黜以懲

筆竟

也

收

質實

隋與突厥和親

祖世 祖平文帝廟號太祖昭成帝廟號高祖太武帝廟

突厥沙鉢略可汗數為隋所敗乃請和親千金公
主自請改姓楊氏為隋主女隋更封以為大義公
主沙鉢略遣使致書自稱從天生大隋天子下賢
聖天子沙鉢略可汗得書知大有善意既為沙鉢
大突厥沙鉢略可汗得書知大有善意既為沙鉢
畧婦翁今日視沙鉢略可汗得書知大有善意既
彼省女復省沙鉢略可汗得書知大有善意既
沙鉢略陳兵坐見慶則稱疾不能起長孫晟曰突
厥與隋俱大國天子但可汗是大隋女婿奈何不
敬婦翁沙鉢略笑乃起拜頓顙願受璽書以戴於
首既而大慙與羣下聚哭慶則要以此稱臣沙鉢
謂左右曰何謂臣左右曰隋言臣借此云奴耳沙
鉢畧曰得為大隋天子奴虞僕射
之勅也文讀贈馬千匹以從妹妻之
勅也文讀贈馬千匹以從妹妻之

冬十一月隋遣使如陳

隋主遣薛道衡等如陳戒之
薛道衡河
曰當識朕意勿以言辭相折
質實
東汾陰人

陳起臨春結綺望仙閣

陳主起三閣各高數十丈連延數十間皆以沈檀
為之金玉珠翠為飾珠簾寶帳服玩瑰麗近古未
有其下積石為山引水為池雜植花卉上自居臨
春張貴妃居結綺望仙閣二貴嬪居望仙閣復道往來
以宮人袁大捨等為女學士江總雖為宰輔不親
政務日與尚書孔範散騎王瑳等文士十餘人侍
宴後庭謂之狎客使諸妃嬪及女學士與狎客共
賦詩采其尤豔麗者被以新聲其曲有玉樹後庭
花臨春樂等六名麗華本兵家女性敏慧有神
自夕達旦張貴妃名麗華本兵家女性敏慧有神
彩善候人主顏色又有厭魅之術置淫祠宮中聚
女巫巫鼓舞百司營奏並因習內外者以進陳主置
上其決之由是宦官近習內外者以進陳主置
賂公行大臣有不從者因而譴之於是大威縱橫貨

風諂附孔範與孔貞續結為兄妹陳主惡聞過失
每有惡事範必曲為文飾稱揚贊美由是寵遇優
渥言聽計從羣臣有諫者輒以罪斥之中書舍人
施文慶頗涉書史嘗事陳主於東宮聰敏強記明
閑吏職大被親幸又為所善沈客卿陽惠朗徐哲
暨憲景等有吏能陳主皆擢用之客卿有口辯煩
知典故憲朗禁景家本小吏考校簿領高釐不差
督責苛碎察飲無厭士民嗟怨關市之稅歲入數
十倍陳主大悅益以文慶為知人轉相汲引珥貂
蟬者五十人孔範自謂文武才能舉朝莫及白陳
主曰諸將起自行伍匹夫敵耳自是將帥微有過
失即奪其兵分配文武由是文武解體以至覆滅
集覽 厭厭益涉反廣雅云厭鎮也行符厭俗之
謂厭厭益涉反廣雅云厭鎮也行符厭俗之
質實 府上元縣治東北五里壘城內俱陳後主所
建後主自居臨春張麗華居結綺龔孔二貴嬪居
望仙並靚粧臨櫺若飛仙有女學士衣大捨獻春

樂詞以
書法 閣未有書者此其書何非常也於是各高
終綱目書起
閣一而已
發明 亡國之事非一而奢侈淫泆為多江左自
氏以蕭梁之敗境土日蹙大非晉宋之比今陳
弗免而况收寶以繼修之哉書陳起臨春結
綺望仙閣觀其名而考其實則奢惡
亡國之事非一而奢侈淫泆為多江左自
陳至德三年春正月朔日合
隋開皇五年
隋頌五禮
禮部尚書
弘所修也

夏五月隋初置義倉親閱戶口作輸籍法

度支尚書長孫平奏令民間每秋家出粟麥一石
 以下貧富為差儲之當社委社司檢校以備凶年
 名曰義倉隋主從之胡氏曰賑社司檢校以備凶年
 隋義倉取之於民不厚而置倉于當社饑民之得
 倉也其庶矣乎後世義倉之名因在而置倉于州
 郡一有凶饑無狀有司固不以上聞也良有司敢
 以聞矣比及報可委吏屬出而櫛之文移反復給
 散艱阻監臨胥吏相與侵沒其受惠者大抵復給
 之近力能自產之人耳居之遠若安能扶老携幼
 數百里以就倉合之廩哉必欲有備無患當以隋
 氏為法而擇長民之官行勸農之法輔以揀荒之
 政本末具舉民之饑也庶有瘳乎時民間多妄
 稱老小以免賦役隋主命州縣大索貌閱戶口不
 實者里正黨長遠配大功以下皆令析籍以防容
 隱於是計帳得新附一以推校籍為輸籍法隋
 言民間課輸無定簿難以推校籍為輸籍法隋

二自是姦
 集覽
 無狀狀蹀也又陳也謂無陳
 量名也倉容十二百黍兩倉為合十合為升古者
 給人以食取之於倉廩故因稱廩給廩食勸農漢
 成帝詔先帝勸農蘇林注勸音翹晉灼曰時召反
 勸勉也師古曰晉詵是貌閱東漢江革傳每歲時
 縣當察比注云案驗以比之備今言貌閱也

遠配配流刑錄也容隱不實者配流於遠地
 一有凶饑無狀有司固不以聞也良有司敢以
 聞矣云云今按無狀當連有司為句謂無狀之有
 司也故有司不良之尤甚者不可形容
 指言故曰無狀下對良有司而形容
 書法
 初納月書卷倉一而已

皆實
 洛陽人

梁主歸殂太子瑒立

歸葬
 境內安之

以與... 市今章...

隋復置江陵

梁大將軍... 梁主叔父吳王... 以監之

隋築長城

隋三... 歷七百... 武築長城東距河西至

胡城

陳至德四年隋開皇六年春正月党項羌請降于隋

集覽... 州西接葉護南界秦桑北鄰吐渾有地三

○隋頒曆于突厥○二月隋制刺史上佐每歲入

朝考課

秋閏八月隋殺其上柱國梁士彥宇文忻劉昉

初上彥討尉遲迥破之代為相州刺史忻與隋主... 書法... 或疎之則隋主亦... 負矣故於是特書

梁士考... 不書其謀... 伐... 謀... 射... 戰... 為... 謀... 射... 戰... 為... 謀... 射... 戰... 為...

總管將大兵以擊... 之人遂能破... 之忠臣佐命之... 懷傾險之志遂... 有餘罪若隋主... 克之之心者乎... 不予隋主之誅... 也其言嚴矣

冬十月隋以楊尚希為禮部尚書

隋主每旦臨朝日晏不倦尚希諫曰周文王以憂勤損壽武王以安樂延年願陛下舉大綱責成宰輔繁碎之務非人主所宜親也隋主善之而不能從

隋以秦王俊為山南行臺尚書令○陳以江總為尚

書令

吐谷渾太子訶請降于隋隋主弗納

吐谷渾可汗夸呂在位百年屢因喜怒廢殺太子後太子懼謀執夸呂而降請兵於隋邊吏請以兵應之隋主不許太子謀洩被殺復立其少子鬼王訶復懼誅謀帥部落萬五千戶降隋遣使請兵隋主曰渾賊風俗特異人倫父既不慈子復不孝朕以德訓人何有成其惡逆乎乃謂使者曰父有過失子當諫諍豈可潛謀非法受不孝之名溥天之下皆朕臣妾各為善事即稱朕心鬼王既欲歸朕朕惟教鬼土為臣子之法不可遠遣兵馬助為惡事鬼王訶乃止

佳覽

鬼王訶訶名

封為鬼王

發明

得隋主以許得國獨於叛人不納此一節為體觀其告諭吐谷渾之語可謂義理明

白詞旨忠厚真帝王之盛節使隋主每事若此庸可非哉書以予之宜矣

陳禎明元年隋開皇七年春正月隋制諸州歲貢七

人○二月隋開揚州山陽瀆

突厥沙鉢略可汗死弟莫何可汗處羅侯立

初沙鉢略以其子雍虞問懦弱遣令立其弟葉護處羅侯沙鉢略死雍虞問遣使迎之處羅侯曰自木杆以來多以弟代兄以庶奪嫡失先祖之法不相敬畏汝當嗣位我不憚拜汝雍虞問曰叔與我父共根連體豈可反屈於卑幼乎且亡父之命何可廢也願狀勿疑遣使相讓者五六處羅侯竟立是為莫何可汗以雍虞問為葉護莫何勇而有謀以隋所賜旗鼓西擊阿波阿波之衆以為隋兵助之多望風降附遂生擒阿波上書請其死生之命隋遂以問長孫晟對曰若突厥背誕須齊之以

刑今其昆弟自相夷滅阿波之惡非負國家因其困窮取而為戮恐非招遠之道不如兩存之高類亦曰骨肉相殘教之蠹也宜

集覽葉護突厥大臣存養以示寬大隋主從之

反木杆前可汗之號也胡反史炤釋文音居按反阿波可汗之號也名大邏便背誕左傳昭元年

楚伯州犁曰子姑憂子哲之欲背誕也杜預注背命放誕也

夏五月朔日食

書法陳白得國至亡三十三年由己卯及今二

日食之數未有甚於此時者也

秋九月隋滅梁以其主蕭琮為莒公**考異**據陳太建

封高緯為溫公則**考證**以當此條以當作封

隋徵梁主入朝梁主帥其群臣二丁餘人發江陵
隋主遣武鄉公崔弘度將兵戍江陵梁主叔父安
平王巖弟璵等恐弘度襲之遣使請降于陳九月
陳荆州刺史陳慧紀引兵至江陵巖等驅文武男
女一萬口奔陳隋主聞之廢梁國遣高集覽官反
頰安集遺民拜梁主琮柱國賜爵莒公

書法

於是蕭巖蕭璵驅萬口奔陳隋主聞之遂
廢梁國不書書滅梁何誅意也嘗罷江陵
總管矣感昕小犯亦豈不可訓責而復置焉既
而徵其主入朝又使崔弘慶將兵戍之隋主之
意可知矣雖微巖璵之舉其
能免乎直書滅梁惰志也

冬十一月隋主如馮翊祠故社

是行也李德林以疾不從救書追之與議伐陳之
計及還隋主馬上舉鞭南指曰待平陳之日以七
寶裝嚴公使自山
以東無及公者

陳臨平湖開

初隋主與陳鄰好甚篤每獲陳謀皆給衣馬禮遣
之而陳侵掠如故故隋伐之會高宗殂隋主即命
班師遣使赴弔書稱姓名頓首陳主答書末云想
彼統內如宜此宇宙清泰隋主不悅以示朝臣上
柱國楊素以為主辱臣死再拜請罪隋主問取陳
之策於高頴對曰江北田收差晚江南水田早熟
量彼收穫之際微徵七馬聲言掩襲彼必屯兵守
禦廢其農時彼既聚兵我便解甲再二如此彼以
為常後更集兵彼必不信猶豫之頃我乃濟師登
陸而戰兵氣益倍江南土薄舍多茅竹儲積皆非
地窖當密遣人因風縱火待彼修立復更燒之不
出數年財力俱盡矣隋主用其策陳人始困於是
信州總管楊素吳州總管賀若弼及兖州刺史高
勸等爭獻平江之策號州刺史崔暹方上書曰
今唯須武昌以下更帖精兵密營度計益信襄荆
基郢等州連造舟楫多張形勢若賊以請兵赴援

上流則下流諸將即可擇便橫度如貫捧參自衛
則上江水軍鼓行以前彼雖待九江五湖之險非
德無以為固徒有三吳百越之兵無恩不能自立
矣隋主以仲方為基州刺史及陳受蕭巖等降隋
主益忿謂高穎曰我為民父母豈可限一衣帶水
不拯之乎命大作戰船人請密之隋主曰吾將顯
行天誅何密之有使投其梯於海曰若彼懼而能
改吾復何求楊素在末安造五牙大艦起接五層
高百餘尺置六拍竿高五十尺容戰士八百人其
次黃龍平乘舳舻太小有差晉州刺史皇甫績言
陳有二可滅大吞小一也且有道伐無道一也納
叛臣蕭巖於我有詞三也陛下若命將出師臣願
展絲髮之效隋主勞而遣之時江南妖異特衆臨
平湖草久塞忽然自開陳主惡之乃自責於佛寺
為奴以**集覽**平臨湖開注見晉安帝元興一年陳
馱之**集韻**曰舊說極無切語音悉之上聲引易極馬壯
吉陸德明釋云極救之極馬融曰舉也伏曼容云

濟也王肅云黃也**資實**班師書大禹謨篇班師
子夏作掛掛取也旅註班還振整也謂整旅
以歸也或謂出日班師入日根旅謂班師於有苗
之國而振旅於京師也九江海陽記云九江皆在
荆州謂烏江蔡九峯江烏白江嘉靡江吹江源江廩江
堤江南江蔡九峯以為九江者洞庭之別名今沅
水漸水毛水長水九水西水澧水資水湘水皆合
於洞庭意以是江漢九水一云澧水資水湘水皆合
江楚江湘江荆江漢九水一云澧水資水湘水皆合
考焉五湖謂太湖射陽湖洞庭湖鄱陽湖以是周宮亭湖
按張勃吳郡曰五湖者太湖射陽湖洞庭湖鄱陽湖
百王三湖六千頭故以五湖名之與錢良是黃龍
騰王閣亭新船之別名天子所駕臨御者也
雀黃龍乃大船之別名天子所駕臨御者也
何益哉

蔡明

蔡明字子瞻而吳十人則以丁未之歲臨湖

又謂蔡明全已西盛而陳誠然則二國之亡乃天數

當蔡明全已西盛而陳誠然則二國之亡乃天數

乎夫蔡明全已西盛而陳誠然則二國之亡乃天數

古人為文而體道者其於文也必欲其有以

天為定而遂置人壽於不問之或平向使

實因開之變臨自壽於不問之或平向使

藏戰勝而後保危懼不問之或平向使

遽爾亡夫何文哉不問之或平向使

不知天運果可以文哉不問之或平向使

修省者果何如耶詩曰畏天之威于

陳主殺其大市令章華

吳興章華好學能文以無開閣除大市令鬱鬱不
得志上書極諫畧曰陛下不思先帝之艱難不知

天命之可畏溺於雙龍惑於酒色柯七廟而不出

拜三妃而臨軒老臣宿將棄之草莽詔佞諂邪升

之朝廷今疆場日蹙隋軍壓境陛下如不改絃易

張臣見麋鹿復遊於姑蘇矣陳主大怒斬之胡氏

曰人臣之義固不可視君密亡而不諫然有可否

之義焉章華忠矣然位非公卿官非諫爭危言刺

上以蹈斧鉞而其本心乃公卿官非諫爭危言刺

志而發也則雖死於公卿官非諫爭危言刺

集覽 牙注劉注元武等章華忠矣然位非公卿官非諫爭危言刺

反制也前漢書云大將軍下

秋陳靈公之妻大將軍下

洩息列不之妻大將軍下

在宣九年之妻大將軍下

康曰謂劉注元武等章華忠矣然位非公卿官非諫爭危言刺

蘇左傳章華忠矣然位非公卿官非諫爭危言刺

行於吳二年將許之妻大將軍下

中戊

隋陳

開皇二年春三月隋下詔伐陳

詔曰陳叔寶荒淫無道

罪之重矣天造地設

天災地孽物極必反

書暴陳主二十萬紙

書法

此書伐何叔寶無道也

夏五月陳主廢其太子胤立子深為太子

然頗有過失詹事袁憲切諫不

張貴妃子始安王深為嗣尚書

太子深亦聰慧有志操谷止儼然

常見其喜愠陳主聞袁憲嘗諫胤

射陳主遇沈氏素薄張貴妃專後

未嘗有所忌然身居儉約衣服無

立張貴妃會國亡不保

冬十月隋以晉王廣為淮南行省尚書令行軍元帥

帥師伐陳

隋晉王廣為淮南行省尚書令行軍元帥

廬州一萬八千... 十萬... 里以... 爲... 和... 周... 安... 施... 之... 不... 弱... 秦... 督... 將... 勢... 日... 其... 下... 遣... 將軍... 劉... 仁... 恩... 帥... 甲... 騎... 擊... 斬... 敗... 之... 悉... 浮... 其... 衆... 勞... 而... 遣... 之... 秋... 毫... 不... 犯... 遂... 帥... 水... 軍... 東... 下... 舟... 體... 被... 江... 旌... 甲... 不... 言... 陳... 江... 中... 無... 一... 闔... 船... 上... 流... 兵... 皆... 阻... 揚... 素... 軍... 不... 得... 至... 湘... 州... 刺... 史... 晉... 熙... 王... 叔... 文... 在... 職... 既... 久... 大... 得... 人... 和... 陳... 主... 忌... 之... 自... 度... 素... 與... 羣... 臣... 少... 恩... 恐... 不... 爲... 用... 乃... 以... 施... 文... 慶... 代... 叔... 文... 配... 以... 精... 兵... 二... 千... 欲... 令... 西... 上... 文... 慶... 深... 以... 爲... 喜... 然... 懼... 出... 外... 之... 後... 執... 事... 者... 持... 已... 短... 長... 因... 進... 沉... 客... 卿... 自... 代... 未... 發... 開... 二... 人... 共... 掌... 機... 密... 護... 軍... 將... 軍... 樊... 毅... 言... 於... 素... 憲... 曰... 京... 口... 未... 百... 俱... 是... 要... 地... 各... 須... 統... 兵... 五... 千... 并... 出... 金... 翅... 二... 百... 餘... 江... 上... 下... 以... 爲... 防... 備... 憲... 及... 驃... 騎... 將... 軍... 蕭... 摩... 訶... 皆... 以... 爲... 軍... 文... 慶... 曰... 此... 是... 常... 事... 邊... 城... 將... 利... 文... 慶... 之... 任... 已... 無... 事... 曰... 此... 是... 常... 事... 邊... 城... 將... 利... 帥... 足... 以... 當... 之... 兵... 出... 入... 必... 悉... 及... 隋... 軍... 臨... 江... 間... 謀... 賊... 至... 憲... 等... 三... 文... 慶... 曰... 元... 會... 將... 逼... 南... 郊... 復... 迹... 今... 君... 出... 兵... 不... 使... 客... 謂... 侍... 臣... 曰... 王... 氣... 在... 此... 齊... 由... 是... 議... 久... 不... 使... 客... 謂... 侍... 臣... 曰... 王... 氣... 在... 此... 齊... 兵... 三... 來... 周... 師... 再... 舉... 不... 使... 客... 謂... 侍... 臣... 曰... 王... 氣... 在... 此... 齊... 長... 江... 天... 塹... 限... 隔... 南... 北... 今... 日... 官... 軍... 豈... 能... 飛... 度... 邪... 孔... 範... 特... 日...

而... 遣... 之... 秋... 毫... 不... 犯... 遂... 帥... 水... 軍... 東... 下... 舟... 體... 被... 江... 旌... 甲... 不... 言... 陳... 江... 中... 無... 一... 闔... 船... 上... 流... 兵... 皆... 阻... 揚... 素... 軍... 不... 得... 至... 湘... 州... 刺... 史... 晉... 熙... 王... 叔... 文... 在... 職... 既... 久... 大... 得... 人... 和... 陳... 主... 忌... 之... 自... 度... 素... 與... 羣... 臣... 少... 恩... 恐... 不... 爲... 用... 乃... 以... 施... 文... 慶... 代... 叔... 文... 配... 以... 精... 兵... 二... 千... 欲... 令... 西... 上... 文... 慶... 深... 以... 爲... 喜... 然... 懼... 出... 外... 之... 後... 執... 事... 者... 持... 已... 短... 長... 因... 進... 沉... 客... 卿... 自... 代... 未... 發... 開... 二... 人... 共... 掌... 機... 密... 護... 軍... 將... 軍... 樊... 毅... 言... 於... 素... 憲... 曰... 京... 口... 未... 百... 俱... 是... 要... 地... 各... 須... 統... 兵... 五... 千... 并... 出... 金... 翅... 二... 百... 餘... 江... 上... 下... 以... 爲... 防... 備... 憲... 及... 驃... 騎... 將... 軍... 蕭... 摩... 訶... 皆... 以... 爲... 軍... 文... 慶... 曰... 此... 是... 常... 事... 邊... 城... 將... 利... 文... 慶... 之... 任... 已... 無... 事... 曰... 此... 是... 常... 事... 邊... 城... 將... 利... 帥... 足... 以... 當... 之... 兵... 出... 入... 必... 悉... 及... 隋... 軍... 臨... 江... 間... 謀... 賊... 至... 憲... 等... 三... 文... 慶... 曰... 元... 會... 將... 逼... 南... 郊... 復... 迹... 今... 君... 出... 兵... 不... 使... 客... 謂... 侍... 臣... 曰... 王... 氣... 在... 此... 齊... 由... 是... 議... 久... 不... 使... 客... 謂... 侍... 臣... 曰... 王... 氣... 在... 此... 齊... 兵... 三... 來... 周... 師... 再... 舉... 不... 使... 客... 謂... 侍... 臣... 曰... 王... 氣... 在... 此... 齊... 長... 江... 天... 塹... 限... 隔... 南... 北... 今... 日... 官... 軍... 豈... 能... 飛... 度... 邪... 孔... 範... 特... 日...

欲作功勞矣陳志以爲忠故不爲官卑虜若度江定作
大尉公矣陳志以爲忠故不爲官卑虜若度江定作
詩不集覽任事以爲忠故不爲官卑虜若度江定作

志云郭璞題名人傳學高才工詞賦時有新公者
精卜筮璞從之遺得青囊中書由是洞知五行卜
筮之術占驗甚多撰洞林新林卜韻爾雅註數十
篇又註三蒼方言山海經楚詞詩賦數十萬言十
地過江晉元帝重之以爲著作佐郎周羅喉尋陽
人頭鹿角狼尾三難最爲艱險或疑流頭灘即
虎頭灘未知是否智者察焉青龍大船之別號

突厥莫何可汗死兄子頡伽施多那都藍可汗立○
吐谷渾禪王木彌降隋

吐谷渾禪王拓跋木彌請以千餘家降隋隋主曰
渾賊偕狂妻子懷怖然叛夫背父不可收納又其

本意正自避死今若遠拒又復不仁
但宜慰撫任其自技不須出兵應接
集覽 禪王 拓跋木彌
復姓也木彌其名

隋

隋高祖文皇帝開皇九年春正月總管賀若弼韓擒
虎進軍滅陳復其主叔寶

正月朔陳主會朝大霧四塞陳主昏睡至曉時乃
寤是日賀若弼自廣陵引兵濟江先是弼以老馬
多買陳船而覆之買船又今綠江防人交代之際
人覘之以爲中國無船又今綠江防人交代之際
必集廣陵太列旗幟營幕被野陳人以爲隋兵大
至急發兵爲備既而知之不復設備又綠江時纔
百人馬喧譟及是濟江陳人遂不知覺韓擒虎將
啓告陳主以蕭摩訶守者皆醉遂克之戊戌主馳
馬消難施文慶並爲太監軍遣使送帥舟師出白

下既而實若... 士於民間... 皆養之給糧... 至風靡靡... 晝夜不絕... 諸戍望風... 與韓擒虎... 建康甲士... 乃奏曰此... 率皆不行... 許及弼至... 出兵掩襲... 法客貴速... 臺城綠淮... 無令彼信... 徑掩六合... 氣淮南士... 人與臣舊... 相度江將... 今聞臣往... 必皆

景從臣復揚聲欲往徐州... 自去待春水既漲上江... 授此良策也陳主不能... 令入腹頃可呼蕭郎一... 戰孔範又奏請作一決... 之多出金自充賞使魯... 毅孔範蕭摩訶軍以次... 不孔範賀若弼登山望... 勒陳待之陳主通於蕭... 唯魯廣達以其徒力戰... 弼縱烟以自隱陳兵斬... 情更引兵趣孔範範兵... 復止擒蕭摩訶釋而禮... 曰官好注臣無所用矣... 出戰忠曰陛下當就上... 信之敕出部分會韓擒... 戰騎迎降於石老子岡... 戰忠揮之曰老子岡引... 走陳人帥數

憲在殿中陳主謂曰我從來遇正色曰太事如此去但
 追愧耳陳主追遽將避匿憲正色曰太事如此去但
 欲安之不若正衣冠御正殿依梁武帝見侯景故
 事陳主不從曰吾自有計乃從後閣舍人十餘出景陽
 殿將自投于井憲苦諫不從乃得入既而軍人窺井
 以身蔽井陳主與爭久之乃得入既而軍人窺井
 呼之不應欲下石乃聞呼聲以繩引之驚其太重
 及出乃與張貴妃孔貴嬪同東而沈后居處如
 常太子深年十五閉閣而坐舍人孔伯魚侍側軍
 士叩閣而入深安坐勞之軍士咸致敬焉賀若弼
 乘勝至樂遊苑魯廣達猶督餘兵苦戰不息所殺
 獲數百人會日暮乃解甲面臺再拜慟哭謂眾曰殺
 不能救國負罪深矣得叔寶呼視之叔寶惶懼流汗
 燒門入聞擒虎已得叔寶呼視之叔寶惶懼流汗
 殷慄向弼再拜既而令叔寶作降箋歸已不果
 相訶挺刃而出欲令叔寶作降箋歸已不果
 景從景讀與影同一決決與訣通要法也為官勒
 有然言我當為官家攻逐隋軍如漢和帝時寶

集覽

憲擊北匈奴登燕然山刻石勒功而還也官注見
 宋明帝泰始元年相詢詢與詔通音許偃反說
 譏詬耻也**正誤**可呼蕭郎一出擊之故孔範請作
 又詈也**一決**謂一戰**質實**魯廣達郡人悉達之弟白下城
 以決勝負也**志**云白土岡在應天府東其土色白隋賀若弼屯
 兵蔣山之白上岡擒陳將蕭摩訶即此石子岡在
 應天府南一十五里吳志建業南有長陵名曰石
 子岡景陽殿在應天府上元縣治東北五里臺城
 內劉宋元嘉中所建井即景陽井在應天府上元
 縣治東北五里臺城內一名胭脂井陳後主與張
 麗華孔貴嬪投其中以避隋兵後人名為辱井樂
 遊苑在應天府北七里覆舟山南劉宋元嘉中
 飲賦詩於此
 顏延之為序

書法

亡國之君其辭五死之上也執虜次之降以
 歸次之獲次之降為下此其書獲何非降

非執窺井得之則獲而已矣然則曷為先書滅
陳無抗者則已滅矣滅不繫其獲也賀若之謀
擒虎之勇俱為有功二將並書一先一後綱目
有以斷此訟矣終綱目亡國之君書獲三趙曜
齊緯陳

發明

晉之平吳綱目書張悌迎戰死之是猶有
人拒戰猶有人死敵也隋氏伐陳自去冬

興師距今數月間未聞陳有一人抗禦迎敵觀
綱目所書弼擒虎進軍滅陳易於拉朽如入無
人之境則陳人坐取而滅亡無足恤者夫有國之
事莫重於邊報之急而陳人付之不問方且上
下相蒙談王氣夸天整儼然泰山之安兵既入
城乃投于井觀叔實所謂吾自有計者不過如
此雖欲不亡奚可得乎自古亡國多矣
未有如叔實之謬者臣故備而論之

晉王廣入建康誅陳都督施文慶等五人

高頴先入建康晉王廣使人馳告之令留張麗華
頴曰昔太公蒙面以斬如已此豈可留也斬之廣
聞之變色曰昔人云無德不報我必有以報高公
矣由是根頴尋入建康以施文慶詔伎沈客卿聚
飲與陽慧朗徐折暨慧景皆為民害斬之以謝三
吳使高頴與記室裴知收圖籍封府庫一無所取
聞者賢之以賀若弼常今元朗收以屬吏帝驛召
之且詔廣曰平定江表弼與擒虎之力也賜物萬
段別詔廣曰平定江表弼與擒虎之力也賜物萬
陵焚骨取灰投水而飲之既而自縛歸罪於廣廣
以聞而**集覽**如也殺紂之正妃皇甫縉曰有蘇氏
赦之有鍾氏之女姜好辯辭妻律於紂索隱曰按
國語有鍾氏之女姜好辯辭妻律於紂索隱曰按
已姓也如音當割反**實**太公蒙面以斬紂已
斬頭懸于大白之旗復令軍士斬紂已及
臨刑一矢百通軍士皆然太公蒙面以斬紂已
裴知收圖籍封府庫一無所取
陵在應天府東二十里也

書法 文慶書法罪之也罪之則為具官若曰

則制其官矣故陳之惟書知書

發明 一施文慶流客知未論其也止以隋兵渡江

固不容於死况又平有送國誤組者乎廣能誅

之以謝三其可謂得乎且我罪之意者宜乎網

以許善心為散騎常侍

帝使以陳亡告許善心善心哀服號哭於西階之

下籍草東向坐三日救書言為明日就館拜散騎

常侍善心哭盡哀改服垂泣再拜受詔明日乃朝

伏泣於殿下悲不能與上顧左右曰戮平陳國唯

獲此人既能懷其舊

君即我之誠臣也

集覽

公羊傳弔亡國曰唁

水軍都督周羅暎降

初羅暎守江夏秦岳後不得進踰月陳南康內史

呂忠肅據巫峽鑿巖綴鐵鎖橫截上流以遏隋船

竭其私財以充軍用揚素擊之四十餘戰忠肅守

險力爭隋兵死者五千餘人既而隋師屢捷忠肅

棄柵而遁復據荆門之途洲素遣五牙四艘以

竿碎其艦遂大破之於是巴陵以東無復城守者

及建康平諸城皆解甲羅暎乃詢諸將大臨三日

放兵散然後諸侯降

集覽

荆門注見唐高祖武德三年

正誤

散讀作上聲開散也白居易詩閑

平聲

句絕然字屬下句散夫也又作平

口在黃州府蘄州比

大浮山西流入志

遣使巡撫陳地州郡

二月置鄉正里長

蘇威奏請五百家置鄉正使治民
以爲本廢鄉官刑事爲其里
令鄉正治民爲害最甚上皆用
議乃以百家爲里置里長一人

將軍宇文述拔吳東揚州執其刺史蕭巖蕭瑒以歸殺之

陳吳州刺史蕭瑒能得物情陳亡吳人推瑒爲主
右衛大將軍宇文述等討之破其柵執瑒東揚州
刺史蕭巖以會稽降
與瑒皆送長安斬之
後因之陳析置會稽縣隋以山陰縣省入唐復置
山陰縣屬越州宋會稽與山陰二縣並治郭下

仍舊。本朝因之改屬紹興府

書法

蕭巖蕭瑒何驅民以奔陳者也於是
曷爲不書陳陳旣亡也陳旣亡則不書陳吳東揚州
揚州可矣不可書陳刺史乎隋之殺之逞忿而
已怒在岩巖而不在於陳刺史也有天下而
一夫隋主之度於是爲不弘矣綱目不書陳使
若自殺其刺史者所以志隋主之編也

陳湘州刺史陳叔慎起兵長沙敗死

揚素之下荆門也遣龐暉將兵畧地南至湘州城
中將士刻日請降刺史岳陽王叔慎年十八置酒
會僚吏酒酣嘆曰君臣之義盡於此乎長史謝基
伏而流涕助防遂與侯正理起曰主辱臣死諸君
獨非陳國之臣乎今天下有難實致命之秋也縱
其無成猶見臣節青門之外有死不能今日之機

隋書卷一百一十五 卷一百一十五 卷一百一十五

不可猶豫後應者斬眾咸許諾乃刑牲結盟遣人
 詐奉降書於龐暉暉入叔慎伏甲執之以狗并其
 眾皆斬之叔慎坐于射堂招合士眾數日之中得
 五千人衡陽太守樊通武州刺史鄔居業皆舉兵
 助之隋刺史薛胃將兵適至擊之叔慎遣陳正理
 樊通拒戰兵敗胃乘勝入城擒叔慎居業送秦正
 俊斬集覽助防遂興侯正理正理為助防之官封
 之南頭第一門曰霸城門民見其門色青名曰青城
 門或曰青門蓋隋都長安故正理曰青門之外有
 死不正誤青門之外有死不能今按邵平為秦東
 能謂陳國既亡若使我降隋至長安如邵平居於青
 門之外有死而已不能往也後魏時宇文泰殺柔
 然可汗於青門外則知周質實一統志云長沙古
 隋之時猶名為青門也地名本秦湘縣地
 為長沙郡治所漢改曰臨湘隋改曰長沙五代漢
 析置龍喜縣宋罷龍喜置常豐縣開寶中廢常豐

入焉元仍舊 本朝因之為長沙府治所仍屬焉

岳陽郡名遂興東漢縣名晉屬廬陵郡隋省入大

和縣今龍泉江口金城即其地故城在吉安府萬

安縣西北一十五里衡陽郡名武州本漢武陵郡

臨沅縣東漢為武陵郡治晉因之梁置武州陳屬

武陵郡隋初因之後改武陵縣屬朗州大業中改

屬武陵郡唐屬朗州宋初屬鼎州後屬常德府元

屬常德路 國朝因之為常德府治所仍屬焉

書法

吳東揚州不書陳陳亡也此其復書何叔

者叔慎一人而已故綱目於其始拒隋也書越

兵其斬之也書死予義也是故韓雖亡矣張良

有復讐之志則書韓張良梁雖亡矣王琳有復

讐之志則書梁王琳陳雖亡矣叔慎有復讐之

志則書陳叔慎

皆予其義也

陳馮寬以嶺南降陳地悉平

嶺南未有所附數郡共奉高涼郡太夫人洗氏為
 主詔遣柱國韋洸等安撫嶺外陳豫章太守徐瑩
 據南康拒之洸等不得進晉王廣遣陳叔寶遺去
 人書諭以國亡使之歸隋夫人集首領數千人盡
 日慟哭遣其孫馮覓帥眾迎洸洸擊斬徐瑩嶺南
 皆定表覓為儀同三司冊洸氏為宋康郡夫人衛
 州司馬任瓌勸都督王勇據嶺南求陳氏子孫立
 以為帝勇不能用以所部來降瓌弃官去於是陳
 國皆平得州三十郡一百縣四百詔夷

集覽

洸古

瑩得滕反

質實

韋洸杜陵人孝寬從子任瓌合肥人石頭城名

夏四月晉王廣班師俘陳叔寶至京師獻于太廟論

功行賞有差

帝坐廣陽門觀引陳叔寶於前使納言宣詔勞之
 陳叔寶宣詔責以羣臣不能相輔乃至滅亡叔寶

及其羣臣並隕懼伏地勇不能對謝而帝給
 廣達進傷本朝淪獲得其一宮覆帝曰叔寶全無心
 叔寶其厚叔寶願得一宮覆帝曰叔寶全無心
 而陳氏子弟多恐其在京城為非乃分道
 州給田業使為生歲時賜衣服以安全之進揚秦
 爵為越公賁若宋公賁與韓擒虎爭功於帝前
 弼曰臣在將山系戰破其統平擒其驍將震揚威
 武遂平陳國論曰臣賁與韓擒虎爭功於帝前
 陳叔寶弼曰臣賁與韓擒虎爭功於帝前
 二將俱為上將於平陳之功曰臣賁與韓擒虎爭功於帝前
 從交命類與上將於平陳之功曰臣賁與韓擒虎爭功於帝前
 戰破賊臣文與上將於平陳之功曰臣賁與韓擒虎爭功於帝前
 讓初上嘗使與上將於平陳之功曰臣賁與韓擒虎爭功於帝前
 柱國封郡公賁與上將於平陳之功曰臣賁與韓擒虎爭功於帝前
 必當憤憤而公賁與上將於平陳之功曰臣賁與韓擒虎爭功於帝前
 弼撰其所賁與上將於平陳之功曰臣賁與韓擒虎爭功於帝前
 曰我不求各賁與上將於平陳之功曰臣賁與韓擒虎爭功於帝前
 曰汝聞江賁與上將於平陳之功曰臣賁與韓擒虎爭功於帝前

虎前曰此是魏書卷三十一
禮逾密因謂曰魏書卷三十一
也每被國多矣未嘗有書傳
書法也終魏國書傳一書實王世充等

復故陳境十年益州一年

書法 年國而民善政也嘗書魏復益州半祖五
書復其民二未炎興元於是冊見終綱目滅國

有厚於此者也

投陳孔範等於邊裔

晉王廣之戮陳五佞也未知孔範王差王儀沈攸
之罪故得免至是始暴其惡投之邊裔以謝吳越
之人瑤忌刻貪鄙儀傾巧側
集覽 陳五佞陳之五
媚權險酷邪諂故同罪焉
依謂施文慶沈

各陽慧朗徐折暨慧景投之邊裔投棄也即詩
巷伯篇投畀有北之義邊遠外之名裔衣裾之未
故四醜謂
之四裔

發明 五佞既誅而範等漏網今既知其罪矣
乃止投於邊裔書之于冊讞失刑也

以陳江總表憲等為開府儀同三司

以江總表憲蕭摩訶任忠為開府儀同三司帝嘉
表憲雅操下詔以高為表憲首又以陳散騎常侍

初我悔不殺在蠻奴受人榮極當重寄不能橫
尸徇國乃亡無所用力與弘演對曰臣荷陳氏

厚遇本朝逾十餘年可死也死地臣荷陳氏
何當貴之表憲等若謂羅暉曰開公拜漢捉兵

即知揚州可復以陳表憲等為開府儀同三司
知也伐陳之役以陳表憲等為開府儀同三司

府儀同三司班在羅帳上禁捕虎戲之曰不知機
 變乃立羊翹之下羅帳曰昔嘗謂公天下下節士今
 日之言非所望也擒虎有獲色初陳豈時常侍幸
 鼎聘于周遇帝而美之謂曰公當大獲貴則天下
 家歲一周天老夫當與贊於公矣及歸盡賣田
 宅或問其故鼎曰江東王氣盡於此矣至是召為
 上儀同其故鼎曰江東王氣盡於此矣至是召為
 三司**集覽**弘演兵或呼逐殺然全蓋食其肉獨舍
 其所弘演使而還天盡衣而止曰臣請為保乃自
 出其府併上者謂之保增遺注吏官連直也猶今當
 官府併上者謂之保增遺注吏官連直也猶今當
 保使者歲一周天天官書注物理論云歲行一次
 謂之歲星十二**質實**韋吳杜陵人
 歲而星一周天**質實**陵人

書法 謂之何哉綱目比而書之得失見矣
發明 江總狎客甚非袁憲忠正之比而乃與之
 並命則非其倫矣擣事有書而義自見

詔除毀兵仗

詔曰今率土大同舍生遂性禁衛之餘鎮守之外
 戎旅軍器皆宜停罷武力之子俱可學經民間甲
 仗悉皆除毀

書法 秦書銷兵器譏私也於是復書除毀兵仗
 秦隋一徹矣是後又書收天下兵器十五

年書禁民間軍器大業五年至於鐵
 又捨鈞之類皆禁之隋文又甚矣

殺樂安公元諧

諧性豪俠有氣調好排詆不能取媚左右
 與王誼善誼誅或告諧謀反案驗伏誅
集覽 調氣

調去聲氣
 槩風調也

書法 或告諧反不書書殺
 綱目有以斷斯獄矣

閏月以蘇威為僕射楊素為納言

秋七月群臣請封禪不許

書法 漢世祖末年羣臣請封禪不許不書建武三十此何以書卒不封禪也與六年不許

而十一年詔議封禪禮者異矣貞觀十一年

發明 諛佞成風已非一日是歲南平陳國瘡痍未瘳而群臣已請封禪舉朝豈無一人正

議要亦從風而靡隋文不許此亦威德之事直筆書之所以予其君而貶其臣也

八月以王雄為司空

左衛大將軍王雄貴寵特威寬容下士朝野傾屬帝陰忌之以雄為司空實奪之權雄乃杜門不通

賓

乾元初復為連州元置建州路隸湖南道大德中降路為州隸英德路本朝初省尋復置隸廣州府

六月始給公卿以下職田

先是臺省府寺及諸州皆置公廨錢收息取給工部尚書蘇孝慈以為官司出舉興生煩擾百姓敗

損風俗請皆禁止給地以營農於是始**集覽**出公卿以下皆給職田毋得治生與民爭利

興生出錢以舉人興利而生息漢書食貨志取**實**倍稱之息師古曰稱去聲舉也今俗所謂舉錢**實**

實 蘇孝慈扶風人

秋七月以蘇威為納言

詔直太史劉孝孫等定曆已而罷之

初張賓曆既行劉孝孫劉焯並言其失時賓十有
寵劉暉附之斥罷孝孫等後賓卒孝孫復上其事
詔直太史累年不調乃抱其書使弟子與觀詣闕
下伏哭執法拘而奏之帝以問何妥妥言其善使
與張胄玄校實曆久之不定上令參問日食事揚
素等奏太史奏日食二上皆無驗而胄玄等親
刻妙中孝孫請先斬劉暉乃可定曆帝不憚又罷之
勞之孝孫請先斬劉暉乃可定曆帝不憚又罷之
孝孫質實劉孝孫彭城人劉焯信都人與觀注
尋卒見漢後主炎興元年張胄玄渤海人

關中旱饑八月帝如洛陽

上遣左右視民食得豆屑雜糠以獻上流涕以示
羣臣深自咎責為之不御酒肉者暮年至是帥民
就食於洛陽救斥候不得驅迫男女參厠於仗衛
之間遇扶老攜幼者輒引馬避之至艱險處見負
擔者念左集覽救斥候救誠也

曲聚文舞者執材齋武舞者執干戚登歌注詳
見宋文帝元嘉二年房內考索曰隋文帝能
著時頗好音樂嘗因倚琵琶作歌一首名曰天高
地厚託言夫妻之義因即取之為房內曲命女人
教習並登歌實實蘇峻京兆人歲之子黃鍾律名
上壽並用之實實魏系武康人涪坦之子虞世基
會稽人

以辛公義為岷州刺史

岷俗畏疫一人病闔家避之病者多死公義命皆
輿置廳事暑月廳即皆滿公義設榻置夜處其間
以秩極具醫藥并自省問病者既愈乃召其親戚
諭之曰死生有命豈能相示若能相示吾死矣
皆感謝而去其後有病者爭就使君其家親戚
固留養之始相慈愛風俗遂變後遷并州刺史下
車先露坐中露坐論問十餘日而疾遂愈還領
新訟皆立次育無其公義即宿廳事終下還

重罪又患令史... 斬每於殿廷... 等諫曰朝堂非... 李君乃盡請朝... 廷殺以馬鞭... 尋悔言氣基而... 竹楚言氣基而... 以荆之人以揮... 行杖之人以揮... 不其重而斬之... 殺未有書地書... 急殺人殿庭髮... 周官司刺掌三... 萬民皆訊之加... 不輕於行法如... 一怒之頃遂殺... 於殿庭之間哉... 隋文以察

書法

發明

集覽

明任情殺戮雖有高頌馮基之徒固諫力爭... 復不從綱目書殺參軍李君才於殿內則君才... 無可誅之罪殿內非刑人之... 之所其惡皆不言自見矣

夏五月詔軍人悉屬州縣

詔曰魏末受亂軍人推置坊府南征北伐居處無... 定今可悉屬州縣其墾田籍帳一與民同軍府統... 領宜依舊式仍... 錄邊新置軍府

六月制民年五十免役收庸○秋七月以楊素為內

史令

冬十一月江南亂以楊素為行軍總管討平之

江表自東晉以來刑法... 之後盡及其威... 威德作五... 使民誦之士民嗟

州高智靈州沈玄愔皆反大者有衆數萬詔遣楊素討之
 千執縣令王元景使更龍使使僕誦五教邪詔遣楊素
 討之而復往石碣所獲而歸女三東葉夜浮鐵扶取賊
 乃亂斬防若三殺子而歸入擊賊玄愔之奏授儀同三
 司素帥舟師自揚子入擊賊玄愔敗走追擒之
 擊之慧靈江東岸見曰吳人以輕銳利在舟揖必死
 之賊子與爭鋒父宜破其陳以待之勿與接又請假
 奇兵數千下潛掩其破也素從之度無所歸進不得戰
 此臨信破趙之策也素從之度無所歸進不得戰
 登江岸舉其營因縱火煙燭張天素縱兵奮擊
 大嶺之智靈入海素遣總管史萬歲帥衆二萬擊
 嶺嶺越海攻破嶺入海素遣總管史萬歲帥衆二萬擊
 關千餘里寂無聲問者十旬遠近皆謂已沒萬歲
 置書竹筒中浮之於水得者以告素上其事上嗟

嘆厚賜其家素追智慧克溫州智慧走保閩越上
 以素久於外令馳傳入朝素以餘賊未殄復請行
 泛海奄至泉州賊帥王國慶自以海路艱阻不設
 備棄州走餘黨皆散素分兵追捕密令人說國慶
 使斬送智靈衆嚴整每將臨敵必求人過失而斬之
 多至百餘人赴敵或不能陷陣而還者悉斬之更令
 一二百人復進還亦如之將士股慄有必死之心
 由是戰無不勝稱爲名將素時貴幸言無不從從
 素行者微功必錄至他將雖有大功多爲文吏所
 譴却故素雖殘忍士亦以此願從焉胡氏曰伐讐
 討逆誅暴解紛兵之得已而殺也讐未復逆未
 先殺吾人而使素致力於殺人人者殺敵而已未
 警懼之而巴揚素部曲皆練習精銳而所當者又
 非強敵乃殘忍不如此而後集覽玄愔而所當者又
 成功猶稱名將不亦異乎後集覽玄愔而所當者又

儂子總管總管官名正義曰子者人**正誤**今授子
之嘉稱子總管舉其官而稱子焉
言小總管禪將也見**質實**未詳處所唯揚州府儀
後四十三卷子將註
真縣南有揚子江經通泰二州入于海昔魏文帝
常至廣陵觀兵臨江見波濤洶湧曰嗟乎固天所
以限南北也江心水謂之南泠水陸
羽能辨之或疑即此來護兒江都人

番禺夷反遣給事郎裴矩討平之**考異**討當以馮盎

為高州刺史洗氏為譙國夫人

番禺夷王仲宣反嶺南首領多應之引兵圍廣州
常洗中流矢卒詔以其副慕容三藏檢校軍事又
詔裴矩巡撫嶺南知至南海高涼洗夫人遣其孫馬暄將兵
救廣州暄不進夫怒遣使執暄擊欲繫更
孫盎會三藏等合擊仲宣擊潰洗氏親

乘介馬張錦繖引毅騎衛從裴矩巡
善格首領陳坦等皆來謁見矩承制署為刺史縣
今使還統其部落嶺表遂定上以矩為民部侍郎
拜盎高州刺史贈馮寶譙國公冊洗氏為譙國夫
人開幕府置官屬給印章聽便宜行事赦暄逗遛
之罪番禺州總管趙訥貪罪俛僚亡叛夫人上封事
論之上遣推訥責氏於法教夫人招慰亡叛夫人
親載詔書稱使者歷十餘州所至皆降上嘉之賜
臨振縣為**質實**慕容三藏燕人
湯沐邑**質實**慕容三藏燕人
俚音里南夷種名也燕晉
反又音瓜西南夷種名也燕晉
間喜人訥之孫焉蓋良德縣人始祖業自北燕浮
海奔宋居新會自業至孫融世為羅州刺史融子
實為高帝中帝之孫也臨振縣隋初所置屬
臨振郡唐置入海州唐置世在廣州府城南一百一
十里崖
州境內

書法

流氏於... 見綱目... 惟洗氏為子爵

十一年春二月吐谷渾可汗夸呂死子世伏立

夸呂開... 保險遣使入貢... 遣使

書法

統... 矣故復書死綱目內外之辨

謹矣

以劉曠為荅州刺史

平鄉令劉曠有異政以義理曉諭訟者皆引咎而去微中草滿庭可張羅高頰薦之故有是命

是月晦日食

秋八月殺滕王瓚

初帝微時與曠不協帝為周相瓚恐為家禍陰欲圖帝其如周高祖妹順陽公主也亦與獨孤后不平帝命出之曠不可至是從幸栗園遇鳩暴卒

十二年秋七月蘇威以開府就第尚書盧愷除名

向安與蘇威爭議事積不相能威十變與受謀樂復不... 間函丈四十餘年... 盧愷薛道衡上... 先官爵以開府... 百餘人自開府... 衡等甄別... 曰蘇威德... 條章每... 品之家其... 無相... 茂嘗為...

嚴刑徒曰... 頓首... 遂相... 客也... 食之... 大司... 席則... 則反... 列及... 父子... 等級... 人乘... 未改... 中復... 屬漢... 一因... 之屬... 東昌... 府

是月晦日食

八月制諸州死刑悉移大理奏裁

帝以天下用律者多踳... 駁罪同論異故有是命... 日踳亦駁也駁乘錯也... 也記王制曰凡制五刑必即天論... 書法 書美恤刑也景帝五年詔獄疑者讞之然... 裁庶乎不輕殺人者其後復詔三... 奏然後行刑則益加審矣十六年

冬十月新義公韓擒虎卒

質實

新義疑是縣名未詳沿筆姑闕之

十二月以楊素為僕射與高頊專掌朝政領軍大將

軍督若弼除名

揚素性疎辯高下在心唯頗推高頗敬牛弘厚接
薛道衡視蘇威以下蔑如也其才藝風調優於
至於推誠體國處物平常有宰相識度則不如
遠矣賀若弼自謂功名出朝臣之右當為宰相及
素為僕射不平形於言色由是免官然望愈甚久
之上下弼獄謂之曰我以高頗楊素為宰相汝每
昌言毀之何也弼曰頗是臣之故人素臣之舅子
臣知其為人誠有此語公卿奏弼罪當死上曰臣
下守法不移公可自求活理弼曰臣將八千兵擒
陳叔寶竊以此望活上曰此已格外重賞弼曰臣
今還格外望活上低回者數日特令除名歲餘復其爵位
日特令除名歲餘復其爵位
回留之不能去索隱注低或作祗敬也言祗敬遲
回不能去之一本作祗迴義亦通楚辭九歌東君
篇心低徊兮顧
懷注低一作俳
質實 昌言釋名云
昌盛也顯也

詔免河北河東功調減田租

有司言府藏皆滿無所容積於廊廡於是更闢左
藏院以受之上乃詔曰寧積於人無藏於府庫河北
河東今年田租三分減
一兵減半功調全免

遣使均田

時天下戶口歲增京輔及三河地少而人衆衣食
不給帝乃發使四出均天下之田其狹鄉每丁纔
至二十畝老
少又少焉

十三年春二月作仁壽宮

詔楊素營仁壽宮於岐州之北素奏宇文愷封德
彞為土木監於是夷山堙谷以立宮殿崇臺累榭
宛轉相屬役使嚴急丁夫多死覆
以土石因而築之死者以萬數
質實 仁壽宮在
鳳翔府麟遊縣西五里乃隋文帝所建其後唐太
宗修以避暑更名九成宮高宗又更名萬年宮後

復舊名宇文愷朔方人
封德彝名倫觀州蓆人

禁藏讖緯

書法 書禁讖緯之學有之矣未嘗禁藏也此其
藏也何讖焉以隋為有留天下之私故讖也
終綱日書圖讖五而書禁者四惟隋為讖辭

秋七月晦日食

詔議明堂制度

帝命禮部尚書牛弘等議明堂制度宇文愷獻木
樣帝命有司度地立之而諸儒議久不決乃罷之

集覽 度地度謀也本作命
有司矩度安業里地

書法 書議何不果立也終綱目書議明堂制
度二 是年唐總章二 皆不果立者也

突厥突利可汗請婚許之

帝之滅陳也以陳叔寶屏風賜突厥人義公主
主以其宗國之覆心常不平書屏風為詩叙陳亡
以自寄帝聞而惡之禮賜漸薄公主遂扇惑都藍
可汗頗為邊患帝遣將軍長孫晟使突厥因發公
主私事廢之內史侍郎裴矩請說都藍使殺公主
時處羅侯之子染干號突利可汗居北方遣使求
婚帝使矩謂之曰能殺大義公主乃許婚突利遂
諸公主於都藍都藍因殺公主更表請婚朝
議將許之長孫晟曰弟責問反覆無信且與玷
厥有隙故欲依倚國家與為婚終當叛去今若
尚主承藉威靈玷厥家下必受其戮發疆而更反
後恐難圖且染干者突羅侯之子事有誠詐前嘗
乞婚不如許之招今南徒其力勢易以觀朝使
敵棄虜問以為遠界上日
集覽 裴矩說突利可汗
尚公 裴矩說突利可汗

十四年夏四月行新樂

協律郎祖孝孫從陳隱山守名奏受京房律法
牛弘使孝孫參定雅樂書律呂
律生五音十一律為六十音因而六之為三百六
十音分直一歲之日以斷七音而旋相為宮之法
由是著明弘等乃奏請復用旋宮法帝猶記何受
之言不聽於是弘等復附帝意銷毀前代金石以
息異議又作武舞以象功德至是樂成詔行之乃
禁民間所造繁聲萬寶常聞新樂法然泣曰岳厲
而哀天下不久盡矣寶常竟餓死
且死悉取其書燒之曰用此何為
集覽京房漢元
受之言質實協律郎事物紀原云漢武置律協都
在九年質實別以李延年始為之晉改為校尉後
無曰協律郎蓋漢武以延年善新聲故特為置協
律郎今因之一統志云陽山本秦長沙郡南境之
地名漢為桂陽縣屬桂陽郡治桂陽隋廢郡置連
州大業初改熙平郡唐為連州大寶初改連山郡

乾元初復為連州元置連州隸湖南道大德中
降路為州隸英德路 本朝初省尋復置隸廣州
府

六月始給公卿以下職田

先是臺省府寺及諸州皆置公廨錢收息取給工
部尚書蘇孝慈以為官司出舉與生頓擾百姓敗
損風俗請皆禁止給地以營農於是始詔
公卿以下皆給職田毋得治生與民爭利
興生出錢以舉人與利而生息漢書食貨志取
倍稱之息師古曰稱去聲舉也今俗所謂舉錢
實蘇孝慈
扶風人

秋七月以蘇威為納言

質實

納言官注見漢
靈帝光和元年

詔直太史劉孝孫等定曆已而罷之

初張賓曆既行劉孝孫及劉焯並言其失賓方有寵劉暉附之斥罷孝孫等後賓卒孝孫復上其事詔直太史累年不調乃抱其書使弟子與觀詰關下伏哭執法抱而奏之帝以問何安安言其善使與張胄玄校賓曆久之不定上令參問且食事揚素等奏太史奏日食二十有五皆無驗而胄玄所刻妙中孝孫驗亦過半於是上引孝孫胄玄等親勞之孝孫請先斬劉暉乃可定曆帝不憚又罷之

質實

劉孝孫彭城人劉焯信都人與觀注

關中旱饑八月帝如洛陽

上遣左右視民食得豆屑雜糠以獻上流涕以示羣臣深自咎責為之不御酒肉者甚年至是帥民就食於洛陽救斥候不得驅迫男女參厠於杖衛之間遇扶老攜幼者輒引馬避之至艱險處是負擔者令左

集覽

救斥候

冬閏十月詔高仁英蕭琮陳叔寶修其宗祀官給器

物

詔以齊梁陳宗祀廢絕命高仁英蕭琮陳叔寶以時脩祭所須器物有司給之叔寶待宴出帝曰之曰此敗豈不由酒以作詩之功何如思安時事當賀若弼度京口彼人密啓告急叔寶飲酒遂不之省高頴至日見啓在牀

集覽

何如思安時事何不

書法

書官給器物何予請也雖予之也亦傷之

發明

自南北分裂諸國鼎峙至隋始能一之今

盡滅

其族乎綱目言外之意深矣

之安當時

隋祖念其宗祀廢絕命高仁英等以時修

祭亦可少切... 然聖人所請繼絕世... 者必以興滅國為先... 之復興與若封以一邑... 官給器物自可... 之所未及者... 介公殞路之後... 家之意封植其後... 能念齊梁陳而不能... 嗚呼且彼獨不聞... 未及下車而封... 祀封帝舜之後... 祀殷之後於宋... 舜夏后氏並封... 絕其祀何哉然... 實修其宗祀而... 之意又自見於... 書法之間矣可勝嘆哉

齊州刺史盧賁有罪除名

賁主民飢閉糶除名皇太子為言賁有佐... 可乘帝曰微劉昉鄭譯盧賁柳表皇甫績等則我... 不至此然此等皆反覆子也當周宣帝時以無... 得幸及帝大漸此輩行詐願命於我我將為政... 欲亂之自為難信非我棄之眾人見此謂我薄... 功臣斯不然矣賁遂廢卒於家胡氏曰是非之... 人皆有之隋文回險黜伎忍而其本心則未嘗... 亡方其圖集大刑以推數相傾則操管囊爭先... 相附者為能及夫所及既得而反思可否則... 顧義不預危事者為是此蘇威所以蒙殊常之... 而譯賁廢死劉昉等則也亦司馬... 傾覆輕薄辱當為新者之罪蓋矣... 謂其疾大進為惟危始廢黜... 正也點下八反... 枝強言也... 書音義曰堅枝也左傳... 殘忍也... 人也... 賁曰言為不盡

散騎侍郎王劭

帝好機祥小藝助前後上奉言上定命奉瑞甚衆
又探五諸議尊若此傳書而如詔辨漢皇隋靈威
志三十卷奏之上今宣示天下功業諸朝集使
盟手焚香閉目而讀之曲新其聲有如受詠凌旬
而罷帝益喜 **集覽** 禮祥史記歷者禮祥與而不統
賞賜優洽 **集覽** 如享曰呂氏春秋六刑人鬼而
越人禳今之巫祝構祠淫祀之比也音灼曰機音
珠環之瓊願野王曰機祥吉凶之先見也服虔曰
來福也探歌謠識緯探采取之也爾雅曰謠
途歌也韓詩曰有章曲曰歌無章曲曰謠
書法 世相宣布圖議則書議之於是上令宣示
學何足深識獨王劭獻佞無心綱目責兩賢者隋文不
所甚惡也不書宣示所以專罪劭也
發明 去年之春方禁識緯今乃宣示符瑞於大
下是何先後矛盾如此蓋隋之得國初無

知乙

十五年春正月帝東巡祀天于泰山

功德及民徒以相表奇異而已既得天下欲私
之以為已有而猶慮人心之不服也故前日之
禁識緯正恐天下之人知吾國祚之修短而今
日之宣符瑞則欲使天下之人知已之當為天
子有非人力所能致者所為雖殊而所以私天
下之意則一其實皆欲杜絕當時非望之心為
吾子孫千萬世不失之計耳君子推見至隱故
於前書其禁識緯於後書其志靈感然後隋文
之心術舉不述於直筆之間矣嗚呼隋文之
聳聳斯世者如此執謂不再傳而遂滅乎

以歲早謝慈也
也禮如南布

書法 未有書紀人者書紀天來

二月收天下兵

發相... 天下之後或錯兵器或撤武
網目前書詔除毀矣仗此書收天下兵器亦足
盜將起又豈兵器不收之咎乎

三月還宮

仁壽宮成以判德彝為內史舍人

仁壽宮成幸之時天暑役夫死者相次於道揚素
悉焚除之帝不悅及至見制度壯麗大怒曰揚素
為吾結怨天下素聞之慮獲譴封德彝曰公勿憂
俟皇后至必有恩詔明日帝果召素入對后勞之
曰公知吾夫婦老無以自娛盛飾此宮豈非忠孝
賜賚厚甚素負責貴恃才多所陵侮唯賞重德彝引
與論議屢為於帝
權為內史舍人

集覽

幸之蔡邕曰天子車駕所
至民臣皆以為僥幸故曰

幸蓋幸其恩

沛之及也

書法

元上書事下書官官其事也於是揚素薦

宮成而也矣是故上書仁壽宮成下書以封德
彝為內史舍人則知其為賞宮成之功上書廣

運籌成下書加章整立散騎

發明

常持則知其為賞宮成之功
不待於甘職辭而於此

宮者德彝也其法如此故曰德彝之為小
人不能其也其法如此故曰德彝之為小
而於此也見之

夏六月擊虜在

焚相州所貢綾文布於朝堂

隋書卷之二十一

書法 經曰書禁暴惡勸善十四書而

秋七月納言蘇威免尋復其位

威坐廢何不致免法而事出臣曰世人言蘇威詐清家累金下此妄言也其性狠戾不切

世要來名大甚從則違之必怒此其大病耳

冬十月以韋世康為荊州總管

世康和聲謙忍為吏部尚書十餘年時稱廉平常有止足之志謂子弟曰祿官須多防滿則退年不待暮有疾便辭因懇乞骸骨不許使鎮荊州時天下唯有四總管并楊益荆以晉秦蜀三王

為 **資實** 謂晉王廣秦王俊蜀王秀

十二月敕盜邊糧并以上皆斬

書法 書法不書過難也書此則邊糧之法竟行矣隋

法之嚴如此及五季唐書詔盜不計賊並行極

法漢書制盜賊毋問賊多少皆死尚何性哉

發明 殺重高下隋其所以盜則有之矣未聞以

并糧而重人者周武帝以盜死帛隱頃地以

上皆死君子不如此况又大書于冊則隋氏之

好生之德不如此况又大書于冊則隋氏之

詔文武官以四考受代

賜沐州刺史公孤熙萬三百匹

無考者為天下之

十六年夏六月初制工商不得仕進

秋八月詔死罪三奏然後行刑

發明

書詔三奏然後行刑可謂不輕於用刑矣夫若一三之頃殺人於殘庭如恐不及觀者豈可容矣

以光化公主妻吐谷澤

書法

自馮跋始女妻柔然者屢矣不書畧之也惟魏以公主嫁突厥小夷則書之此其書何議也堂堂中國為天下君而以公主妻非類以是為辱也故自是至唐公主外嫁悉書之

十七年春二月遣太平公史萬歲討南寧羗平之

考

初梁睿之克王謙也夷獠皆附唯南寧州酋帥爨

囊不服睿上疏乞因平蜀之衆畧定之帝未之許

至是乃以史萬歲為行軍總管帥衆擊之入自蜻

蛉川過諸葛亮紀功碑度西洱河入渠濫川行千

餘里破其三十餘部虜獲男女二萬餘口諸夷大

懼遣使請降獻明珠徑寸於是勒石頌隋德萬歲

請將其酋長爨翫入朝

翫略萬歲萬歲捨之

一曰東爨烏蠻一曰西爨白蠻西爨之先為晉南寧郡守因中國亂遂王蠻中故曰南寧西爨西洱河括地志云在南詔國中案大宋重修廣韻洱音耳水出罷谷山漢益州郡地晉置南寧州梁因之唐改西寧州貞觀中改黎州唐末為些麼徒蠻所據號步雄部後屬爨蠻改寧州元初置寧部萬戶後改寧海府至元中改寧州屬臨安路本朝因之隸臨安府靖蛉川未詳處所諸葛亮紀功碑在雲南府宜良縣南小石嶺唐廣德初鳳伽異築拓東城故有諸葛

亮石刻文曰碑即仆蠻為漢奴夷畏誓常以石猪
悟今廢西洱河在大理府城東即古之葉榆河也
一名瀾海又名西洱海源自鄧川合點蒼山之
八川而匯于此形如人耳周三三百餘里中有羅筌
濃禾赤崐三島及四州九曲之勝下流合樣備江
濃禾島形如儿案故又名玉案山渠濫川在雲南
府昆陽州東南五里東北流入滇池

桂州亂遣軍討平之以令狐熙為總管

桂州俚帥李光仕作亂遣周法尚討斬之上以夷
越數反以令狐熙為桂州總管許以便宜從事承
制補授熙至部大弘恩信其溪洞渠帥更相謂曰
前時總管皆以兵威相脅今者乃以手教相諭我
輩其可遠乎於是相帥歸附先是州縣生便長吏
多寄治於總管府熙悉遣之為建城邑開學校華
夷感集覽州縣生梗梗謂捺梗猶言荆
化焉棘也謂州與縣先皆荒蕪
正誤今按

不馴熱搜謂搜塞
不通借叔化之便

三月詔諸司論屬官罪職律外決杖

帝以所在屬官不敬憚其上事難克舉故有是詔
於屏上下相驅逐行捶楚以殘暴為幹能守法為
懦弱又以盜賊繁多命盜一錢以上皆棄市或三
人共盜一瓜事發即斬於是行旅皆畏起早宿天
下慄慄有數人劫而謂之曰吾豈求財者邪
但為枉人來耳而為我奉至尊自古立法未有盜
一錢而死也而不可不問吾更來而屬無類矣帝聞
乃為停之又嘗乘慈祭以六月杖殺人大理少卿
趙綽固爭帝曰六月難日主長此時必有雷霆我
則天而行有付不可遂殺之綽固來續告綽蓋免
徒囚推驗無實帝怒命斬之綽固死帝弗衣入
閣綽託奏他事獲入再拜曰臣有死罪三帝弗能制
馭掌固使觸天刑一也囚不日合死不能死三帝
本無也事妄言求入三也帝意解會獨後在坐

命賜綽酒及一全至其用免更盡事河子世要在
江南作亂摩高靈聖全華國上命詳遠詳曰臣
奏獄未決不重退等不罪之刑部待即幸重會
緋禪帝以為引罪之罪曰法不當死臣不致奉
詔帝怒其命引罪之罪曰法不當死臣不致奉
朝堂解衣就刑上使使人問之對曰法不當死
敢惜死帝乃釋之帝以諫諍直前使賞賜萬計
大理卿薛育俱名平恕然有原情而諫守法帝
節用益峻元會衣劔有不齊者御史不效殺之
諫議大夫毛思祖諫又殺之帝既喜怒不恒復
依準科律信任楊素素復任情不平與鴻臚火卿
陳延有隙常經蕃客館庭中有馬屎又衆僕於
上擣藉以白帝帝大怒主客令及擣藉者皆杖殺
之擣藉幾死帝還觀謝大都督屈突通往騰西檢
覆羣牧得隱匿馬二萬餘匹帝大怒將斬太僕卿
以下十五百人隨諫曰人命至重陛下柰何以畜
產之故殺千餘人臣敢以死請帝頓目叱之通又
頓首曰臣一身分死就陛下句千餘人命帝感悟

論權軍
也執事謂主執其事者而
為古武侯將軍也
我而猶言爾汝也下而舉而蜀並同掌固官名大
理寺屬官元會謂元旦且朝會時擣藉局戲各
博物志云擣藉也九勿及分扶問及自必
突代北獲姓也
也死

實實 東人急突通長安人
書法 善祥也唐世錄
發明 昔聖昌上則自世始矣
古人所以無之景前弄故法有畫一律戒貳端
且若此况無言寸六所大焉官者乃同書之所
謂道簡乃無言寸六所大焉官者乃同書之所
秩雜有景下焉焉地志事主其之為不可知
又律外失之於焉焉地志事主其之為不可知
幾何哉若律上二十焉焉地志事主其之為不可知

幾何哉若律上二十焉焉地志事主其之為不可知
又律外失之於焉焉地志事主其之為不可知
幾何哉若律上二十焉焉地志事主其之為不可知

可也又... 律為... 旨... 厚... 理... 為屬官尚可不... 知... 其位乎

上柱國劉昶子居士有罪伏誅

昶與帝有舊帝... 數有罪帝每原之... 者以車輪括其頸而捧之... 與交黨與三百人多所授奪... 帝怒斬之

書曰

非未有書某子者書昶子何罪失... 教也特筆書之垂戒之意深矣

明

不直曰劉居士有罪伏誅而必曰法... 昶子者父過愛而縱其子子為惡而累其

父是以交... 張之也

夏四月頒新曆

湯素牛弘等復薦張胃玄曆... 立議六十一... 辯析之... 史... 今參定新術至是曆成頒之... 禪等除名

秋七月桂州亂遣將軍虞慶則討平之

桂州人李世賢反... 慶則曰位居宰相... 何也慶則... 請行... 討平之

并州總管秦王俊有罪

并州總管秦王俊有罪... 請行... 討平之

俊幼仁無事歸教及為并州... 進毒得疾微遠免官廢也... 過不至此願陛下詳之帝曰若如公意何不別制... 天子兒律周公尚器管蔡况我不及周公安敢虧... 法乎卒不許

發明

俊既書有罪免周無可言者隋主妾授周... 公誅管蔡之事為比夫周公制禮作樂治... 致太平至使周家之德仁乃草木澤被昆蟲刑... 措不用者帝嘗不以為法而獨取其不得已之... 一節以為口實可動且春生秋殺造化不能偏... 廢然生意常貴而不息今不體其生而惟體其... 殺又從而告諸人曰此天意也是天惟以殺為... 事耳隋文位端不幸類是臣故因而及之以告... 後之君子

以安義公主妻突利可汗

吳 安義公主

突厥突利可汗來逆女帝舍之太常教習六禮... 以宗女安義公主帝欲離間都藍故特厚其禮... 長孫晟說之使帥眾南徙居度斤舊鎮錫資優厚... 都藍怒曰我大可汗也反不如染干乎於是朝貢... 遂絕亟掠邊鄙突利伺知動靜集覽來逆女逆迎... 輒遣奏聞由是邊鄙每先有備也穀梁傳隱... 二年逆女親者也注親者自來逆之也莊二十四... 年公如齊逆女親也注親者自來逆之也莊二十四... 太常寺都藍可汗之號也反頻數也掠音亮突... 利可汗名亟掠亟去吏反頻數也掠音亮突

書法

隋無耻也隋公主何據漢元封宗女書公主... 以是為不足為之諱也故因其所稱而稱焉... 安義以宗女書公主義成以宗女書公主

冬欽州刺史審長直來朝

初散騎侍郎何稠使嶺南及還欽州刺史審猛力... 請隨入朝稠以其疾篤遣還而卒帝不憚稠曰猛

力與臣約假令身死當遣子入侍矣猛力臨終果
誠其子長真葬畢登路至是長真嗣為刺史如言
入朝帝大悅曰何稠質實郡地漢為合浦縣地劉
著信蠻夷乃至於此質實郡地漢為合浦縣地劉
宋置宋壽郡梁兼置安州隋罷郡改安州曰欽州
治欽江縣大業初又改州為寧越郡唐復為欽州
宋屬廣西路元置欽州路治安遠縣
本朝改為州以安遠縣省入屬廉州府

書法

審長真何蠻酋也於是何稠自信著蠻夷故
書志之終隋世書來朝者六自蔡王智積
之外皆蠻夷也隋世之盛極矣審長真
蔡王智積啓民再書諸蕃處羅可汗

十二月殺魯公虞慶則

慶則之討桂州也以婦弟趙什住為長史什住通
於慶則愛妾恐事泄乃宣言慶則不欲行帝聞之

禮賜甚薄慶則還至臨桂嶺曰此誠險固加以
糧若守得其人攻不可拔什住入奏事因告慶則
謀及按驗坐死拜什住為柱國

書法

於是人告慶則乃不書書
殺綱目有以斷斯獄矣

發明

乃上書慶則討平桂州未聞舉賞功之典而
當書罪誅今而曰殺蓋不過因人誣告耳夫大
臣受枉若此則細民從可知矣有功者半罪若
此則過誤者又可知矣惡之也

高麗王湯卒

湯聞陳亡大懼治兵積穀為拒守之策是
湯璽書責之會病卒子元嗣帝使使拜元
王

吐谷渾弒其可汗世伏

吐谷渾大亂國人殺世伏立其弟伏允為使陳謝且請依俗尚主從之自是朝貢歲

書法 蠻夷書殺吐谷渾書弒何非純夷目夷狄書弒六詳齊丁丑皆變例

十八年春二月高麗寇遼西遣漢王諒牙兵之考

異 討亦當 **考證** 帝當作伐 謹按唐太宗與侍臣言

隋文帝平陳并天下南北七代之運分裂而始合三

光五嶽之氣否塞而始通可謂建非常之功成非常

之業矣曾未十年復事高麗之後且高麗僻在遼海

之外不可以中國治之隋人用兵不利蓋始於此

心自是而失天下自是而亂守成之難於此尤可

驗也凡例曰用兵於夷狄曰伐故當於高麗曰伐之

高麗王元帥鞞鞞萬餘人寇遼西營州總管韋冲

擊走之帝大怒以漢王諒王世積將水陸三十萬

伐高麗以高 **集覽** 鞞鞞音未曷北狄國本號粟

類為諒長史鞞鞞姓大氏其先有舍利乞乞種

象者度遼水附高麗仲象死子祚榮立唐玄宗拜

為渤海王自是去鞞鞞而專稱渤海祚榮死子

武藝立號渤海鞞鞞地志云鞞鞞古肅慎地

慎地去京兆東北萬里東北各抵大海

夏五月禁畜猫鬼蠶蠶母厭魅野道者

獨孤后之弟延州刺史他育婢事猫鬼能使之殺

人會后與楊素妻鄭氏俱有疾醫皆曰猫鬼疾也

上意聽所為今高麗等雖治之具得其害

皆賜死后為之請曰他育亦若闕求 **集**

今為妾身敢請其命他育亦若闕求 **集** 哀於是身死詔自今有祀者殺四裔 **集** 釋文曰他育 妖邪之鬼也

發明 於維尼野道及下者其請文禁

誠是也然使王... 不待禁而自止... 則雖

秋九月罷漢王諒

諒軍出臨渝關... 周羅睺自東萊... 九月師還死者... 王元亦遣使謝罪... 寧縣東二十里... 伐高麗出臨渝關... 一名臨關關

冬十二月置行宮十二所

自京師至仁壽宮之道也

書法

書行宮始此終綱目書置行宮二... 是年開元二十六省奢勞之主也

南寧夷蠻反太平公安萬歲以罪除名

蠻既反蜀王秀奏史萬歲受賂縱賊致生邊患... 帝怒命斬之高頴及元旻等皆諫曰萬歲雄畧過人將士樂為致力雖古名將未能過也上意少解於是除名

十九年春二月遣楊素等分道伐突厥都藍可汗未

至都藍擊突利可汗敗之夏四月突利來奔諸軍遂

破都藍及達頭部

突厥突利可汗奏都藍可汗欲攻大同城詔以漢王諒為元帥高頴出朔州道楊素出靈州道燕榮出幽州道以擊都藍皆取勝... 藍聞之與達頭可汗結盟... 遂入蔚州突利部... 走比旦叔... 遣使者入... 問晨給...

舉四峰使見... 達官執室領其... 安帝大喜厚待... 護突厥高頰使... 突厥戰大破之... 面拒戰五日會... 奔七百里而還... 突厥戰慮其騎... 角為方陳騎在... 勝也於是更為... 天而拜帥騎兵... 擊之先帥精騎... 傷不可集覽... 勝計不可集覽... 突厥大臣之稱... 釋文曰鹿角陣... 人趙仲燦... 天水人

六月殺宜陽公王世積

宜陽縣名注見周安王十一年

世積為涼州總管其親信皇甫孝諧有罪吏捕之... 亡抵世積不納孝諧因上變告世積嘗令道人相... 其貌有惡言世積坐誅... 以孝諧為上大將軍

書法 於是或告世積令道人相其貌有惡言則... 罪也不書而以無罪書殺何隋文忌酷功

臣之不殺者鮮矣雖微告者其庸免乎故從梁士彥元諧虞慶則例書殺

秋八月除左僕射高頰名

獨孤后性如忌後宮莫敢進御尉遲迴女孫沒寤... 中得幸后陰殺之帝大怒單騎入山谷間二十餘... 里高頰楊素等追及扣馬苦諫帝告之故頰曰陛... 下豈以一婦人而輕天下帝意解還宮后流涕拜... 謝頰素等和解之因置酒極歡先是后以頰父客... 甚親禮之至是聞頰謂已為一婦人遂銜之時太

子勇失愛帝潛有廢立之志從容謂頰曰有神告
 晉王姬言王必有天下若之何頰曰長幼有序其
 可廢乎后知頰不可奪陰欲去之會帝令選東宮
 衛士入上臺頰奏曰若盡收彊者恐東宮宿衛太
 劣帝作色曰太子左右何須壯士我熟見前代公
 不瀕仍踵舊風頰子表仁娶太子故帝以此言
 防之頰夫人卒后請為之娶帝告之頰流涕謝曰
 臣今已老退朝唯齋居讀佛經而已納室非所願
 也帝乃止既而愛妾生男帝聞之喜后不說曰陛
 下尚復信高頰邪始陛下欲為頰娶而頰面欺余
 其詐已見矣帝由是疎頰伐遼之役頰固諫不從
 及師無功后言於帝曰頰初不欲行陛下強遣之
 妾固知其無功矣又帝以漢王諫年少專委軍事
 於頰諫所言多不用甚銜之及還泣言於后曰足
 幸免為高頰所殺帝聞之彌不平及擊突厥進圖
 入積遣使請兵近臣緣此言頰欲反帝未之谷頰
 已破突厥而還矣及王世積誅推竅之際有宮禁
 中事云於頰得之大驚有司又奏頰與世積交通

賀若弼宇文弼薛胄斛律孝卿柳述等明頰無罪
 上愈怒皆以屬吏自是朝臣莫敢言頰遂坐免以
 齊公就弟帝謂侍臣曰我於高頰勝於兒子自其
 解落頰然忘之臣不可以身要君也頰之頰國令
 言頰于走仁謂頰曰司馬仲達記疾不朝遂有天
 下公今遇此焉知非福於是帝大怒囚頰鞠之有
 司請斬之帝曰去年殺虞慶則今茲斬王世積如
 更誅頰天下其謂我何於是除名惡民頰初為僕
 射其母誡之曰汝富貴已極但有一所頭耳爾其
 慎之頰由是常恐禍變至是盡然無懼色先是國
 子祭酒元善言於帝曰揚素龍味蘇威怯懦可付
 社稷唯高頰耳帝初然之及頰得罪帝深責之善
 憂懼**集覽**以頰父客頰乃忘父獨孤信之客解落
 而卒反執也國令齊國之朝注之籍要君要音
 一焉反執也國令齊國之朝注之籍要君要音
 故置國令司馬仲達三國時魏丞相司馬懿
 同馬仲達詔疾不朝遂有天
 內人必有奇節博學洽聞漢末
 矣

下之心後受曹操顧命輔攻傳至孫炎是為晉武帝建尊懿為宣帝事在漢後主延熹十二年元善洛陽

九月以牛弘為吏部尚書

弘選率先德行而後文才務在審慎雖致停緩而所進用多稱職侍郎高孝基盛賞議悟清慎絕倫然與後有餘迹似輕薄時宰多以

冬十月以突厥突利為啓民可汗妻以義成公主處

之朔州

突厥歸啓民者男女萬餘帝命長孫晟於朔州築大利城以處之特安義公主已卒復以宗女義成

公上妻之晟奏請徙五原以河為固於夏勝之間東西至河南北四百里掘為橫塹令處其內使得

畜牧帝從之又令趙仲卿集覽夏勝之阻夏本漢屯兵二萬為啓民防遠頭

在朔州南勝即今東勝州在質實一統志云大利雲內州南今俱屬大同路縣名本秦之雲

中縣地漢置沙南縣屬雲中郡後魏時廢隋初為雲州地大業初置大利縣屬定襄郡唐屬雲州遼

始析雲中縣地置懷仁縣因阿保機與晉王李克用面會東城取懷想仁人之義故名金陞為雲州

元復為懷仁縣屬大同路本朝因之屬同府五京部名夏勝二州名勝隋初所置治榆林縣後改

為榆林郡唐改東勝州或為榆林郡遼廢後復置本朝省之故城在大同府城西五百里

書法前書光化公主嫁吐谷渾矣又書安義公主嫁突厥矣於此復書義或公主嫁啓民

五年三書中國之辱未有甚於隋世者也

十二月突厥弑其都藍可汗雍虞問

帝遣楊素韓僧壽史萬歲姚辯分道擊都藍未出塞都藍為部下所殺達頭自立為步迦可汗其國大亂長孫晟曰今官軍臨境虜主彼弑乘此招撫可以盡降請遣染下部下分道招慰帝從之降者甚眾

書法

突厥未有書弑者此其書弑何進都藍也肩為進之初都藍父沙鉢累病以子弱遺令立處羅既死都藍迎處羅處羅辭都藍曰叔可及屈於卑幼乎父命不可廢也五六反卒立之處羅又死都藍乃立若此不可以異類鄙之天故於其見殺也特書弑此綱目之變例也

甲庚

二十年春二月賀若弼坐事下獄赦出之

弼復坐事下獄帝數之曰公有三太猛嫉妬心太猛自是非人心太猛無上心太猛既而釋之佗曰

帝謂侍臣曰弼將伐陳謂高頴曰不作高鳥盡良

云藏邪後又語頴曰皇太子於已無所不盡公終

久何必不得弼力何狀朕邪意圖**集覽**數之數責

鎮廣陵又圖荆州皆作亂之也數之公終久何

第一不得弼力何狀朕邪意圖**集覽**數之數責

謂公如何何必弼力何狀朕邪意圖**集覽**數之數責

今按古詩賦者一語邪文雖朕力力何狀朕邪意圖

難越王為大長領鳥家可與共邪意圖**集覽**數之數責

上書無罪之辭下獄赦出之

正誤

夏四月突厥達頭可汗犯塞詔晉王廣等擊却之

突厥達頭可汗犯塞詔晉王廣等擊却之
史萬歲分道擊之長孫晟等十餘人出塞與虜
死大驚夜宿成之新首十餘人出塞與虜
而引去為使開閉諸塞而後還
大破之逐北入塞而後還
上流也左傳襄十有四年晉人死即此
而次素人毒涇上流而後還

六月秦王俊卒國除

俊父疾未能起遣使奉表陳謝帝謂其使者曰我
戮力創業作訓垂範汝為吾子而欲敗之不知何
以責汝俊慙怖疾遂篤六月卒上哭之數聲而巳
俊所為侈麗之物悉命焚之僚佐請立碑上曰欲
求名一卷史書足矣何用碑為若子孫不能保家
徒與人作鎮石耳俊子浩崔妃所生庶子曰湛羣

臣希旨奏二子毋皆有罪不合
承嗣帝從之以秦國官為喪上

書法

國除未有不書故者據燕王建長沙王芮
妃毒之致疾信有過矣遣使陳謝帝峻責之遂
使慙怖而卒崔妃之子固以毋罪廢之俊有庶
子亦廢不立帝之寡恩
甚矣直書國除甚帝也

冬十月廢太子勇為庶人

初帝使太子勇參決政事時有損益帝皆納之勇
性寬厚率意任情無矯飾之行帝性節儉勇嘗飾
蜀鎧帝見而不悅戒之曰自古帝王未有好奇侈
而能久長者汝當以儉約為先乃能奉承宗廟吾
昔日衣服各留一物時復觀之以自警戒今賜汝
以我舊所帶刀一枚并道誓一合汝昔作上士時
常所食也若存記前事應知我心後遇冬至百官
皆詣勇勇張樂受賀帝不悅下詔停之自是恩寵

始衰漸生猜阻勇多內寵昭訓雲氏尤幸其妃元氏無寵遇疾而薨獨孤后意其有他深以責勇然昭訓自是遂專內政生長寧王儼及平原王裕安成王筠諸姬子又數人后彌不平遣人伺求勇過晉王廣知之彌自矯飾後庭有子皆不育后由是數稱廣賢大臣用事者廣皆傾心與交帝及后每遣左右至廣所廣必與蕭妃厚禮之往來者無不稱其仁孝帝與后嘗幸其第廣悉屏匿美姬於別室唯留老醜者衣以縵絲給事左右并帳改用練素故絕樂器之弦不令拂去塵埃帝見之喜由是愛之特異諸子嘗密令來和遍視諸子對曰晉王貴不可言廣美姿儀敏慧嚴重好學能文敬接朝士由是聲名籍甚自揚州入朝將還鎮入宮辭后伏地流涕曰臣性識愚下不知何罪失愛束宮恒蓄盛怒欲加鳩毒后忿然曰媿地伐漸不可耐我為之娶元氏女竟不以夫婦禮待之專寵阿雲使有如許豚大前新婦遇毒而死我亦不能窮治何故復於汝發如此意我在尚爾我死後當魚肉汝

乎每思東宮竟無正嫡至尊千秋萬歲之後遺汝等兄弟向阿雲兒前再拜問訊此是幾許苦痛邪廣又拜嗚咽不能止后亦悲不自勝自是后决意欲廢勇立廣矣司馬張衡為廣畫奪宗之策廣問計於安州總管宇文述述曰皇太子失愛已久令德不聞大王仁孝著稱才能盖世數經將領頗有大功主上內宮咸所鍾愛四海之望實歸大王然廢立大事未易謀也能移主上意者唯楊素耳素所與謀者唯其弟約述雅知約請朝京師與約圖之廣大悅多齎金寶資述入關約時為大理少卿述請約與飲博陽不勝以所齎金寶盡輸之因說之曰此晉王之賜令述與公為歡樂耳約驚問故述因道廣意且說之曰公兄弟功名蓋世當塗用事有年矣朝臣為足下家所屈辱者可勝數哉又儲君以所欲不行每切齒於執政主上一旦棄群臣公亦何以取庇哉今太子失愛於皇后主上素有廢黜之心請立晉王在賢兄之口耳誠能因此時建大功王心永銘骨髓斯則去累卵之危成大

山之安矣約然之以白素素聞之大喜後數日入侍宴微稱晉王孝悌恭儉有類至尊后泣曰公言是也阿廢人孝愛覲地伐常欲潛殺之素因感言太子不才后遂遺素金使贊帝廢立勇頗知之憂懼計無所出使人造諸狀勝帝又使素觀勇所為素至東宮還言勇怨望恐有他變帝益疑之后又遣人伺覘東宮纖芥事皆聞奏因加誣飾以成其罪帝遂疎忌勇東宮宿衛名籍悉令屬諸衛府有勇徒者咸屏去之廣又令段達私賂東宮幸臣姬威令伺太子動靜密告楊素於是內外誼謗過失日聞段達因脅威告之九月詔執左庶子唐令則等數人付所司訊鞠命楊素陳東宮事狀以告近臣帝曰此兒不堪承嗣久矣皇后恒勸我廢之我以布衣時所生地復居長望其漸改隱忍至今其婦初二我疑其遇毒嘗責之勇懟曰會殺元孝矩此欲害我而遷怒耳長寧初生朕與皇后共抱養之自懷彼此連遣來索且雲定與女在外私合而生想此何必是其體胤儻其非類便亂宗祐我終

不以萬姓付不肖子我恒畏其加害如防大敵今欲廢之以安天下左衛大將軍元曼諫曰竊立大事詔旨若行後悔無及讒言罔極惟陛下察之帝不應命姬威悉陳太子罪惡威對曰嘗令師姪卜吉凶語臣云至尊忘在十八年此期促矣帝然曰誰非父母生乃至於此於是禁勇及諸子黨與揚素鍛鍊以成其獄居數日有司奏元曼嘗曲事勇在仁壽宮勇以書與之顯云勿令人見帝乃執曼威又言至尊在仁壽宮太子常飼馬千匹云徑往守城門自然餓死素以威言詰勇勇不服曰竊聞公家馬數萬匹勇忝備太子馬千匹乃是反乎素又發東宮服翫似加調飾者悉陳之於庭以示文武為太子之罪帝及后迭遣使責問勇勇不服十月使人召勇勇驚曰得無殺我邪帝戎服陳兵御武德殿集百官諸親引勇及諸子列於殿庭宣詔廢勇及其男女並廢人勇痛哭泣下舞蹈而哀去左右莫不閉然湯素進曰臣願上表請宿衛辭情不切帝覽之閉然湯素進曰臣願上表請宿衛辭情不

宜復留意遂詔元昊唐令則
 移勇於內史省賞揚素物三
 上書諫曰皇太子為小人所
 黜帝怒其奇服異器以求悅
 不聽政其奇服異器以求悅
 道路籍籍此於太子非令名
 特及禍定與以告勇勇疎政
 昵押每令以弦歌教內人右
 庶子當輔太子以正道何有
 令則甚慙而不能改劉臻明
 為勇所親行本怒其不能調
 正解讀書耳夏侯福嘗於閣
 於外行本付執法者治之數
 勇嘗得良馬欲令行本乘而
 尊令臣輔導殿下非弄臣也
 人已卒帝歎曰向使裴政劉
 嘗宴宮臣唐令則自彈琵琶
 歌斌始娘洗馬李綱

起向勇曰今則身為宮卿職
 此倡優進淫聲穢視聽事若
 累邪臣請速治其罪勇曰我
 敢對者綱獨曰廢立大事今
 可而莫敢發言臣何敢畏死
 之乎太子性本中人可與為
 下擇正人輔之足以守國基
 左庶子鄭文為家令二人唯
 悅太子安得不至於此乃
 之罪也因伏地流涕帝憐之
 我非為無理然我擇汝為宮
 得正人何益哉對曰臣之所
 姦臣在側故也陛下見味亦
 輔太子安知臣之終見味亦
 罷朝左右皆為之殿票會尚
 司請人帝指綱曰此佳方為
 集覽

道蔡魚反說文以不極知辭以清菜也道通作道
 周禮七菹菹非菁芹葵苴苽
 謂之菹禮記內則芥苽
 之類謂地代太子勇小
 小字慶莫慶反慶
 也亦勝也地復居長地
 謂宗社也禮有郊宗祐室左傳莊十四年典司宗
 祐注宗祐宗廟中為主石室也
 流貌藝手藝音釋盡行毒也弄臣案漢書注弄戲
 也謂專狎藝無閑大體
 通作嫵嫵書相如
 上林賦嫵媚冊弱
 日自秋分日行南陸至冬至日南極矣故曰日
 南至今之冬至也聲名籍甚謂聲名之甚盛也
 行本沛人劉臻沛國相人明克讓平原南人山
 之子陸爽臨漳人斌媚娘曲名季綱觀州人
 優女樂也股栗股
 幹也栗戰兢恐懼也

發明

隋帝以刑名治天下故見於綱目所書者
 法律禁錮殺戮貶斥之事為多而忠厚寬
 仁撫摩教養之政一毫無有也五子皆出於獨
 孤固無嫡庶之分然前此三年秦王俊既以罪
 免至是卒而國除畧無父子主恩之意帝之所
 為固可想矣若夫太子國儲副君非有大惡未
 易輕動今乃惑於衝孤之說曲成其罪率然廢
 之太子不能辨朝紳不敢言獨有附會誣罔者
 乃得志耳隋文持法之弊一至於此昔秦政以
 法毒天下而扶蘇不得其死一傳胡亥國遂以
 亡隋氏之失亦大類此綱目書廢太子勇而不
 言其罪則勇之見廢無罪可知天國莫重於太
 子且以無罪廢
 之况他人乎

殺太平公史萬歲

萬歲伐突厥還揚素忌之奏寢其功會廢太子萬
 歲方與將士在朝堂稱寬帝問萬歲何在素曰謂

東言矣帝以為然召之既見帝言將士有功為朝
廷所抑詞氣憤厲帝大怒令左右撰殺之既而追
之不及天下

集覽

擗殺擗弼角友揅
博雅云擊也

十一月立晉王廣為皇太子是日天下地震

廣請降章服官官不稱臣許之以宇文述為左衛
率郭衍為左監門率亦預奪宗之謀也帝囚故太
子勇於東宮付廣掌之勇頗請見上申寃而廣遏
之不得聞初帝之克陳也天下皆以為將太平監
察御史房彥謙私謂所親曰主上忌刻而苛酷太
子卑弱諸王擅權天下雖安方憂危亂其子玄齡
亦密言於彥謙曰主上本無功德以詐取天下諸
子皆驕奢不仁必自相誅夷今雖承平其亡可翹
足待彥謙法受之玄孫也高孝基名知人見玄齡
歎曰僕閱人多矣未見如此郎者異日必為偉器
恨不見其大成耳見杜果之免孫如晦謂曰君
有應變之才必任棟梁之重俱以子孫託之

實

實房彥謙臨淄人杜
果京兆杜陵人

書法

地震之辭有三某郡地震者一方之辭也
天下地震者無一方不震之辭也然則書是日者三哀帝用下傳而是日

於天地之變書是日者三哀帝用下傳而是日
日食桓帝微行而是日大風拔樹書昏隋文立
廣而感應之捷也天下地震綱目皆揭是日書之
著感應之捷也天下地震綱目皆揭是日書之
震終綱目一書而已矣

發明

綱目書地震多矣未聞有書天下地震者
夫震必有方則書曰某地某州是也或所

震不一則泛書也前史載戊子立廣為太子天
未聞以天下書也前史載戊子立廣為太子天
下地震至綱目變文上不書戊子而下書是日
言是日則其理益明蓋深表地震之由繫於立
廣之日所以起後世之疑欲使之推原其故耳
夫太子承桃主器將以鎮安海宇今乃於正位

之日舉四海九州之大同日地震變異若此其為傾覆必矣然是時既已廢立則亦將若之何母亦考問罪否推究得失少有疑似則躍然知悞速為之所庶幾少吝天地之變而免於覆亡之禍可也夫何帝之觀此漫不加省遂至末年身不自保則天亦末如之何矣天之警告人主未有若是之明著者而帝不之悟哀哉

禁毀佛天尊及神像

帝晚年深信佛道鬼神故有是詔

發明 所謂像者非繪畫摹塑則雕刻耳以其像亦不類矣故書以譏之

同州刺史蔡王智積入朝

智積帝之弟子也性脩謹門無私謁自奉簡素帝甚憐之智積有五男止教讀論語孝經不令交通賓客或問其故智積曰卿非知我者其意恐諸子有才能以致禍也

以王伽為雍令

齊州行參軍王伽送流囚李參等七十餘人詣京師行至滎陽謂曰卿輩自犯國刑身嬰縲繼固其職也重勞接卒豈不愧心參等辭謝伽乃悉脫其枷鎖停接卒與約曰某日常至京師如致前却吾當為汝受死遂捨之而去流囚感悅如期而至一無離叛帝聞而驚異召見與語稱善久之於是悉召流人宴而赦之因下詔曰使官盡王伽**集賢**致民皆李參刑厝其何遠哉乃擢伽為雍令

前却若至期日而或前或後乃擢伽為雍令致志雍縣為扶風郡百官奏萬戶以上為令城萬戶為**質實**長

酉辛

仁壽元年春正月改元

書法

令十... 十... 仁壽元年... 春正月改元... 仁壽元年... 春正月改元... 仁壽元年... 春正月改元...

初太史令袁充表曰京房有言太平日行上道并
平行次道兩代行下道蓋日去遠近則景短而日
長去極遠則景長而日短今自隋興晝日漸長開
皇元年冬至之景長一丈二尺七十二分自爾漸
短至十七年短於舊三寸七分矣上臨朝謂百官
曰日長之慶天之祐也今當改元宜取此意以為
號仍命百工作役並
加程課丁匠苦之

書法

非始建國不書改元此何以書譏也於是
袁充奏言開皇以來冬至之景漸短至十
七年短於其舊三寸七分其說曰京房有言太
平日行上道於無防此仁壽然考其時日食也

集覽

景短樞要云日光

震變異迭見其不為太平明矣豈是年始用新
曆冬至有差故敷綱目特書改元譏相蒙也是
故漢感詔者之言而改章和則書改元魏感詔
之之言而改仁壽則
言而改元皆譏也

發明

改元不書言而此書之者
著其日長詔用之說也

以蘇威為僕射○二月朔日食○夏五月突厥九萬

口來降○六月遣十一使巡省風俗

廢太學及州縣學子改書子為太學

詔以學校生徒多不勝在館舉國子學生七十
人為太學四門及州縣學等處廢劉炫上表切諫不聽
尋改國子
為太學

二年春二月突厥入寇楊素擊破走之

突厥思力俟斤等南渡河大掠啓民人畜而去行
軍元帥楊素帥諸軍追擊轉戰六十餘里大破之
悉得人畜以歸啓民自是集覽思力俟斤突厥大臣
突厥遠遁南無復寇抄集覽也俟斤突厥大臣
之稱亦部酋長之稱也俟渠之反啓民
開皇十九年以突利可汗為啓民可汗
書法 於是突厥渡河掠啓民人畜而去其書入
之 何內啓民也啓民終身北藩斯可以內
矣之

秋七月以韋雲起為通事舍人

兵部尚書柳述尚蘭陵公主怙寵使氣自揚素之
屬皆下之帝問符璽直長韋雲起以外間不便事
述時侍側雲起曰柳述驕豪未嘗經事兵機要重
非其所堪臣恐物議以為陛下官不擇賢專私所

愛斯亦不便之大者帝甚然之顧謂述曰雲起之
言汝藥石也可帥友之會詔內外官各舉所知述
舉雲起除
通事舍人

徵蜀王秀還京師

益州總管蜀王秀容貌瓌偉有膽氣好武藝帝每
謂獨孤后曰秀必以惡終我在當無慮至兄弟必
反矣大將軍劉瓚之討西蠻也帝令揚武通將兵
繼進秀以嬖人萬智光為武通行軍司馬帝譴責
之因謂群臣曰壞我法者子孫也譬如猛虎物不
能害反為毛間蟲所損食耳自長史元巖卒秀漸
奢借車馬被服擬於乘輿及晉士黃為太子秀意
甚不平太子恐其為患陰令楊素求其罪而諧之
帝遂徵秀秀猶豫欲謝病不行司馬源師諫秀作
色曰此自我家事何預卿也師垂涕對曰師忝參
府幕職不盡心救追已濟時月乃遷延未去聖
上發雷霆之詔降一介之使王何以自明願熟計

之朝廷秀生變以獨孤措為益州總管馳傳代之措至諷諭久之乃就路措察秀有悔色因勅兵為備秀行四十餘里將止

質實

揚武通華陰人

八月皇后獨孤氏崩

后崩太子對帝及宮人哀慟絕氣若不勝喪者其處私室飲食言笑如平常又每朝令進二溢米而私取肥肉脯鮓置竹筒中以蠟閉口衣襟裹而納之

集覽

米莫一溢米也注

見陳宣帝太建六年

書法

自宋以來后崩葬不悉書非皇后畧之也於是而後復書至唐德宗一書皇后崩而不書氏不書葬自是不書皇后崩者矣

冬十月以楊達為納言閏月詔脩定五禮

認楊素蘇威與牛弘等脩之

葬獻皇后

帝令上儀同三司蕭吉為皇后擇葬地得吉處云卜年三千卜世二百帝曰吉凶由人不在於地然竟從吉言吉退告人曰皇太子遣宇文左率深謝余云公前稱我當為太子竟有其驗今卜山陵令我早立當以富貴相報言語之曰後四載太子御天下然太子得政隋必亡次吾前給云三千者三十也二百者二傳也汝其識之

十二月廢蜀王秀為庶人除洛書侍御史柳或名配

懷遠鎮

蜀王秀至長安帝不與語使切讓之秀謝罪太子諸王流涕庭謝帝曰頃者秦王廢費財物我以

父道訓之今秀盡害生民當以君道繩之於是付
執法者開府慶整諫曰庶人勇既廢秦王已薨
下見子無多何至如是蜀王性甚耿介今被重責
於市以謝百姓乃令楊素等推治之太子陰作偶
人縛手釘心枷鎖扭械書帝及漢王姓名密埋之
華山下楊素發之又云秀妄述圖讖并作檄文置
秀集中以聞帝曰天下寧有是邪乃廢秀為庶人
幽之內侍嘗素嘗以少謹敕送南臺命治書侍御
史柳或治之或據案坐立素於庭辯詰事狀素由
是銜之秀嘗從或求李文博所撰治道集或與之
秀遺或奴婢十口及秀得罪素奏或或以內臣交通
諸侯除名為民配戍懷遠鎮久之貝州長史裴肅
遣使上書曰高頴以天挺良才元勳佐命為衆所
疾以至廢棄願陛下錄其大功忘其小過又二庶
人得罪已久寧無華心願陛下弘君父之慈顧天
性之義各封小國觀其所為若能遷善漸更增益
如或不悛貶削非晚書奏帝謂楊素曰裴肅憂我

家事此亦至誠也於是徵肅入朝太子謂之謂
廢子張衡曰使勇自新欲何為也衡曰觀肅之意
欲令如吳太伯漢東海王集覽偶人史記殷本紀
耳肅至帝曰論而罷之漢光武郭石所生子
人謂之天神正義曰偶五苟反對也以上木為人
對象於人形也漢東海王
實實 東人 **書法** 秀奢僭有罪矣其以無罪書何廢不以其
無罪例 書除名 罪也於是廣素誣秀上信廢之故或亦以
詔楊素三五日一入省論大事
素兄弟諸父並為尚書列卿諸子位至柱國刺史
廣營資產家僮數千妓妾亦千數第宅華侈制擬
宮禁既廢太子及蜀王威權愈盛違忤者誅夷附
會者進擢朝廷靡然莫不畏附敢與抗者蜀郡

及尚書右丞李綱大理卿梁毗而已始毗為西
州刺史十一年蠻夷酋長皆以金多者為豪僂
相攻奪無寧歲毗患之後因諸酋長相帥以金
遺毗毗置金坐側對之而不可勝數今將此
來欲殺我邪一無所納於是毗感其德遂不相
擊帝聞而善之機為大理卿法平允毗見素專
其害于而害乃上封事曰臣聞臣無有作威作
隆所私皆非忠謀所進咸是親戚子弟布列兼
連縣天下無事容息異圖四海有虞必為禍始
下若以素為阿衡臣恐其心未必伊尹也伏願
鑒古今量為虞置俾鳴基末固幸上幸甚書奏
大怒收毗繫獄親詰之毗極言素擅寵弄權殺戮
無道又太子及蜀王罪廢之日百僚無不震悼惟
素揚眉奮肘喜見容色利國家有事以為身幸帝
乃釋之其後帝亦寢疎忌素乃下教曰僕射國之
案輔不可躬親細務三五日一向省評論大事外

示優崇實查之惟也素由是不復通判省事出揚
約為伊州刺史於是吏部尚書柳述益用事參掌
機密素深惡之太子嘗問於賀若弼曰楊素臨
虎史萬歲此日稱良將其優劣何如弼曰楊素猛
非謀將韓擒虎聞將非領將史萬歲騎將非大將
太子曰然則大將誰也弼拜曰唯殿下所擇弼意
自許也
賢實 昆安定鳥孫
也

交州俚帥作亂遣總管劉方討降之

交州俚帥李佛子作亂揚素薦瓜州刺史劉方有
將帥之畧詔以為交州道行軍總管統二十七營
而進方軍令嚴肅有犯必斬然仁愛士卒有疾病
者親臨撫養士卒亦以此懷之踰嶺遇賊擊破之
進軍臨營諭以禍
福佛子懼請降

三任秋八月出州總管燕榮有罪誅

策性嚴酷... 長史懼固辭帝乃... 每答雖不滿十然一日之中或至三數... 付微絕其糧其妻請開稱寬帝遣使案... 驗徵還賜死以弘嗣代茶酷又甚之

南人

發明

孔子曰天下有道則見無道則隱夫所謂無道者豈直兵戈禍亂之世而已凡其君道操切禁網嚴密風俗澆浮者皆是也隋文之世在廷之臣非刀筆俗吏則介冑武夫往往互相傾軋况其君方以法律御天下畧無一毫寬大待士之意蓋嘗詔諸司論屬官罪聽律外決杖矣今燕榮總管幽州元弘嗣為其長史日受鞭笞甚至付之囹圄絕其糧廩必欲置之死地而後已夫長史為屬官之長所當禮貌而加敬者苟或有過則宜奏之于朝黜之可也烏可待

以卒伍廝役之賤而答箠之哉隋文於此方且戒以杖十以上皆須奏聞及其肆虐已甚又從而誅之夫杖一且猶不可况至十乎隋之所以待士大夫者如此士君子苟有廉耻之心稍自愛者烏可一日安於其位哉綱目直書榮罪誅而以分注備載其實後之君子欲知隋世宦達之士者於此可以觀矣

九月置常平宮

考異

提要官作倉

龍門王通獻策不報

通詰闕獻太平十二策帝不能用罷歸通遂教授於河汾之間弟子自遠至者甚衆累徵不起揚素甚重之勸之仕通曰通有先人之弊廬足以庇風雨薄田足以供養窮讀書記道足以自樂願明公正身以治天下使時和年豐通也受賜多矣不願仕也或諧通於素曰彼實慢公公何敬焉素以問

通通曰使公可得則僕得矣不可慢則僕失矣得
失在僕公何預焉素待之如初弟子賈瓊問息謗
通曰無辯問止怨曰不爭通嘗稱無赦之國其刑
必平重斂之國其財必削又曰聞謗而怒者讒之
國也見譽而喜者伎之媒也絕國去媒讒佞遠矣
大業末卒於家門人謚曰文中子胡氏曰隋文在
位二十有三年其賢其否固哲士所量以行藏其
道者使王通而不知或知之而猶與之言皆不足
以為智矣且通誠有太平之策不待君之求之而
登門自獻不懼自處之不平亦豈所以養其君尊
德樂道之心而望之功哉

隗覽 養粥養通作醴記擅弓
以大有為之功哉

賈實 殷王祖乙所都春秋時屬晉秦
以來生鳥也

置皮氏縣漢屬河東郡魏晉皆屬平陽郡後魏改
龍門縣又置龍門郡隋初郡罷以縣屬蒲州唐置
秦州貞觀中州廢以縣屬絳州元和初屬河中府
宋宣和初改為河津縣金屬榮州後復屬河中府

元仍舊 本朝因
之改屬平陽府

書法

策未有書獻者書獻策不報交讖之

發明

隋文以刑法治天下廢太學黜儒道而王

通為隱君子使其教授河汾著書講道以沒其
身亦何不可之有而必欲鼓瑟於齊王之門自
取絀辱是豈席珍待聘之君子哉直書獻
策不報若王通者蓋亦可愧之甚矣惜哉

突厥啓民可汗歸國考異

此句無

突厥步迦可汗所部大

突厥步迦可汗所部大

突厥步迦可汗所部大

宋文帝元嘉七年

四年春正月帝如五原宮

秋七月太子虞被殺於五原宮而自立遂殺故太子

勇流尚書柳述侍御元嚴于上嶺南

四月帝不豫七月疾甚用藥百餘劑手歔歔
 越四日崩於大營高祖性嚴重令行禁止勤於
 政事雖畀於財至於賞賜有功即無所愛變養百
 姓勸課農桑雖登瀛海賦自奉儉素乘輿御物故弊
 者隨令補用非享宴不過一肉後宮皆服綈濯之
 衣天下化之丈夫率衣絹布裝帶不過銅鐵骨角
 無綾綺金玉之飾焉受禪之初民戶不滿四百萬
 末午踰八百九十萬然猜忌苛察信受讒言功臣
 故舊無始終保全者乃至子弟皆如仇敵初文獻
 皇后既崩帝以陳高宗女為宣華夫人有寵及寢
 疾僕射楊素兵部尚書柳述黃門侍郎元嚴皆入
 侍疾召太子入居殿中太子慮帝有不諱須預

防擬手自為書封出問素素條錄事狀以報宮人
 誤送帝所帝覽而大恚陳夫人旦出更衣為太子
 所逼拒之得免上恚抵牾曰畜生何足付大事獨孤
 曰太子無禮上恚抵牾曰畜生何足付大事獨孤
 誤我乃呼柳述元嚴曰召我兒述等將乎太子上
 曰勇也述嚴出問為教書素聞以白太子矯詔執
 述嚴繫獄追東宮兵帖上臺宿衛門禁出入並取
 宇文述郭術等皆廢子張衡入殿侍疾盡遣
 後宮出詔別室而工崩太子封中外頗有異論陳大
 人聞變震栗失色而太子封中外頗有異論陳大
 夫人聞變震栗失色而太子封中外頗有異論陳大
 恚而却坐不肯致謝太子封中外頗有異論陳大
 夜太子素為明日致謝太子封中外頗有異論陳大
 約入長安稱高祖之詔賜太子勇死縊殺太子遣
 然除陳兵集衆於高祖之詔賜太子勇死縊殺太子遣
 嗣除陳兵集衆於高祖之詔賜太子勇死縊殺太子遣
 敗嫁之公主以死太子勇死縊殺太子遣
 主憂憤而卒因氏曰太子勇死縊殺太子遣

逆之名信所不... 牝雞之晨... 逢事會則... 命子孫之賢者... 登時而宗社... 間轉禍為禍... 巖死有餘... 悉於夷姜... 重易序卦... 者莫如... 祠之長子... 篇武王曰... 是用注... 書法... 有有功也... 鉞居東宮... 運勤司馬... 消難王... 謙皆以... 舉兵書... 既而四... 書堅

殺一書自為相... 帝繼之矣... 之族書盡... 以再書伐... 升懂斬書... 弗納叛人... 不許封禪... 亦不沒其... 發明... 有試... 有父... 有天下... 有大惡... 覆載之... 所不容... 况太子

為萬世之罪人... 繼止謂中外... 不載其事... 同然皆不... 父與君之... 日未得其... 監刑者... 塞耳... 保今日... 之為人... 乎何... 廣等... 而望... 之獄... 至

發明... 有試... 有父... 有天下... 有大惡... 覆載之... 所不容... 况太子... 為萬世之罪人... 繼止謂中外... 不載其事... 同然皆不... 父與君之... 日未得其... 監刑者... 塞耳... 保今日... 之為人... 乎何... 廣等... 而望... 之獄... 至

是始得其正... 遣後... 一人... 發其... 目正... 嘗藥... 明則... 之無... 是始得其正... 遣後... 一人... 發其... 目正... 嘗藥... 明則... 之無... 是始得其正... 遣後... 一人... 發其... 目正... 嘗藥... 明則... 之無...

賤許善心為給事中

表允奏皇帝即位與堯受命年合調百官表賀禮... 部侍郎許善心議以為國哀甫爾不宜稱賀宇文... 述素惡善心諷御史... 劾之左遷降品二等

并州總管漢王諒起兵晉陽遣楊素擊虜以歸殺之

諒有寵於高祖為并州總管自山以東至海南距... 河五十二州皆隸焉特許以便宜從事諒自以所

居天下... 陰為... 之不... 祖... 好... 所... 曉... 理... 是... 又... 京... 以... 囚... 日... 身... 居天下... 陰為... 之不... 祖... 好... 所... 曉... 理... 是... 又... 京... 以... 囚... 日... 身...

於是從諫... 屬盡在... 所謂疾... 東人諫... 兵曹... 方畧... 擾兵... 諸將... 直指... 長安... 至蒲... 州而... 鍾葵... 不固... 景司... 侯莫... 唯在... 蒲城... 於是從諫... 屬盡在... 所謂疾... 東人諫... 兵曹... 方畧... 擾兵... 諸將... 直指... 長安... 至蒲... 州而... 鍾葵... 不固... 景司... 侯莫... 唯在... 蒲城...

之無聲... 降詔... 諒之初... 秋謂... 非為... 帝曰... 為表... 喻毓... 濟謀... 部分... 相不... 內帝... 無謀... 之引... 軍潰... 雄為... 兵與... 國之... 之無聲... 降詔... 諒之初... 秋謂... 非為... 帝曰... 為表... 喻毓... 濟謀... 部分... 相不... 內帝... 無謀... 之引... 軍潰... 雄為... 兵與... 國之...

募得千餘人... 騎三萬自井陘西擊... 史楊義臣... 蔡悉家拒之... 千頭令兵教百人... 痛後復戰兵合命... 鍾葵軍潰... 樞絕徑路屯據高... 臨之自引奇兵潛... 使軍司簡留三百... 守營素聞之即召... 無願留者素乃引... 之六懼自將兵十... 曰礪素懸軍深入... 其勢必克今乃望... 軍之氣也願王勿... 洋矣必敗矣揚素... 退

保晉陽素道兵圍之... 諒當死帝不許除名... 死徙者二十餘萬家... 不可行許隋文之崩... 約即附從之眾用王... 九州附從之眾用王... 死生以之豈不忠孝... 名是為逆世而可乎... 愛重誓無異生之子... 嬖幸嫡庶分爭或至... 可謂貞兄弟也豈有... 故使諸子分據大鎮... 不以壽終司馬公曰... 后外寵貳政嬖子配... 祖知嫡庶之多爭孤... 雖同產至親不能無... 一而失集覽王類姓... 其三乎

二反王麟符唐車服志初高祖罷隋竹使符班銀
 菟符其後改為銅魚符以起軍旅兩京北都留守
 給麟符六典云傳符之制京師留守曰王麟符
 州本胡地樓煩王所居漢為太原郡地元魏置嵐
 州嵐盧含反屬階詩桑桑篇誰生厲階至今為梗
 注屬惡梗病也左傳曰階之為禍也單貴紇姓也
 單貴其名紇下沒反單上演反戴羃離羃音莫狄
 反離通作離音力支反唐會要曰唐初宮人著羃
 羅而全身障蔽雖起自戎夷土公之家亦用之末
 徽之後唯戴阜羅方五尺亦曰幘頭即今之蓋頭
 侯莫陳三字姓遲明索隱曰遲音擇有所待也言
 待天明也或曰事畢然後天明明遲於事故曰遲
 明總管屬朱濤乃總管之僚屬也蔡良姓名蔡音
 渠之反太行山名也輕而無謀左傳輕則寡謀注
 輕牽正反言不持重也天不共載記曲禮曰父之
 讐弗與共載天注父者子之天殺已之天與共載
 天非孝子也行求殺之乃止昔辛伯諗周桓公此
 句下至亂之本也左傳閔二年文注辛伯周大

夫也周桓公即周公名黑肩諂音審告也諂文云
 深謀也事在桓十八年初子儀有龍於桓王桓王
 也周公弗從後周公欲弑莊王而立王子克辛伯
 告莊王遂殺周公黑肩注王子克莊王弟子儀也
 並后妾如后也匹嫡度如嫡也兩政臣擅命也耦
 國都如質實高祖隋文帝廟號高祖王顯祁縣人
 國也虢地漢為魏郡安縣地後魏置邢州宋以昭
 邢郡地漢為魏郡安縣地後魏置邢州宋以昭
 發周劉地漢為魏郡安縣地後魏置邢州宋以昭
 置磁州後魏置邢州宋以昭義
 縣省入磁州後魏置邢州宋以昭義
 復為磁州後魏置邢州宋以昭義
 實抗岐州後魏置邢州宋以昭義
 南三十里後魏置邢州宋以昭義

書法
 以書法名也於書法以高祖書法諒不

發書無驗言素反起在
之則未聞寶殿之事矣
發明 隋文 終中外頗有異論諒若能正名舉
詞書之今 行晏駕之由則綱目當以討賊之
特書起真 姑以是而著揚廣之罪而非以是
子諒也 旨微矣

冬十月葬人陵寶實功志云秦陵在西安府武○

除婦人及奴婢部曲之課令男子二十二成丁

十一月帝如洛陽

章仇大翼言於帝曰陛下本命雍州為破木之
不可久居又識云脩治洛陽還晉家帝以為然遂
幸洛陽留晉集覽章仇
王昭字長安復姓

新龍門達上洛以置關防

發丁男數十萬掘斬自龍門東接長平及郡抵
臨清開度河至浚儀襄城達於上洛以置關防實

實一統志云臨清關在衛輝
府新鄉縣北隋初所建

書法天子之守可知矣

陳叔寶卒

贈長城縣晉一統志云長城縣本秦之鄣郡也
公謚曰陽晉一統志云長城縣本秦之鄣郡也
縣屬吳興郡隋初置入焉魏尋置屬蘇州大業
中屬吳郡唐初置蘇州又改名蘇州尋廢州以縣
屬湖州五代時本州改為蘇州又改名蘇州尋廢州以縣
陸為張本州改為蘇州又改名蘇州尋廢州以縣
府州

書法 姓名何也 詩也 書法 若書卒七

揚州 無爵者 而凡

以洛陽為東京

煬帝大業元年春正月立皇后蕭氏

書法 立后自宋以來不書列國也於是始書至

后非有故 不書也

○廢諸州總管府○立晉王昭為皇太子○遣劉方

擊林邑

群臣有言林邑多奇貨者時天下無事劉方新

實 林邑南蠻國名 驩州莫詳沿暹唯外夷 安南國又安府所 領有驩州未知是否

二月以楊素為尚書令

較有司大陳金寶之物錦綵車馬引楊素及諸將 討并州有功者立以前使奇章公牛弘宣詔賜資 有差以素 為尚書令

詔天下公除 惟帝服 黃衫 裝帶

書法 公除木有書者

書法 逆而 天下 公除 木有書者 長書者 數也 身行 飲

網 日 特 書 之

三月命楊素管東京宮

詔楊素營東京役丁一萬人皆洛州郭內居民
及諸州富商大賈皆令入京役之數將作大匠字
文愷與內史舍人趙彥深等皆仁宮發江嶺之
間奇材異石輸之洛陽以築宮殿仁宮草珍禽
奇獸以資苑囿齊書仁宮在
實苑周書河南府高唐縣仁宮在

開通濟渠引汴水開邳溝置龍舟

詔曰古者聽不與頌遠及庶民故法審刑政之得
失今將三陸淮海觀音風俗遂命尚書右丞皇甫
議發丁百萬開通濟渠自西苑引穀洛水達于河
復自穀洛引河入汴引汴入泗以達于淮又發民
十萬開邳溝入三溝廣四十步旁築御道樹以柳
自長安至江都置離宮四十餘所置黃門侍郎王
弘等往江南造龍舟及雜船數萬艘舊覽邳溝邳
官吏督役無役丁死者什四五舊覽音寒左
傳哀九年吳城邳溝注於邳江築城穿溝東北通
射陽湖西北至宋口入淮通狼道也今廣陵韓江

是元和郡縣志云合瀆渠在江都縣東二里昔
王夫差將伐齊自廣陵城東南築邳城謂下掘
溝謂之邳江廣覽一統志云通濟渠即汴河也
亦曰邳溝廣覽其源舊自開封府滎陽縣東經
府城內又東合蔡河名黃蔡渠又名通濟渠東注
泗州下入于淮累因河決其蔡河湮沒無跡而汴
河自府西中牟縣入黃河矣邳溝即官河在揚州
府城北一百二十里昔吳王夫差將北霸中國自
廣陵城東南築邳城下掘蔡渠謂之邳江亦曰邳
溝自江東北通射陽湖又西北入淮一名漕河左
傳吳城邳溝通江漕即此江漕未詳處所離宮常
州府城東南二十里有離宮乃隋大業間於昆陵
郡置宮於內宮離宮十六所正殿曲閣周廊飛橋
相貫百餘所後廢落唯西苑池臺而秀麗奇靡過
之

書法

書法不設不勝不家見是書法於此書
宮於此書法不勝不家見是書法於此書
宮於此書法不勝不家見是書法於此書
宮於此書法不勝不家見是書法於此書

帝待諸王恩薄冬所信及... 吉凶及... 帝待諸王恩薄冬所信及... 各其... 帝待諸王恩薄冬所信及... 各其... 帝待諸王恩薄冬所信及... 各其...

八月帝如江都

上幸江都龍舟四重... 有正殿內殿... 浮景九重... 主百官... 皆以... 百餘里... 令... 將... 多棄埋之

契丹寇營州遣諸者韋雲起以突厥兵討平之

考異

此討字亦

契丹寇營州詔通事謁者韋雲起護突厥兵討之... 培民可汗發騎二萬受其... 四道俱引管相去一里... 角聲而止自非公使勿得... 行股栗莫敢仰視契丹本... 既入其境使突厥許云向... 泄亭實者斬契丹不為... 之勇獲甚眾以女子及... 餘皆收之以歸帝大... 待御史

鐵勒叛西突厥自立為莫何汗

初西突厥阿波可汗... 素特勒之子是... 實特勒之子... 地... 奴... 鐵勒叛西突厥自立為莫何汗... 初西突厥阿波可汗... 素特勒之子是... 實特勒之子... 地... 奴... 鐵勒叛西突厥自立為莫何汗... 初西突厥阿波可汗... 素特勒之子是... 實特勒之子... 地... 奴... 鐵勒叛西突厥自立為莫何汗...

二年春正月併省州縣

其首長者... 無大君長分屬東西而突... 勒諸部厚於其物又忌... 盡殺之於是... 為莫何可... 與處羅... 國所憚伊吾高... 昌焉者皆附之... 注同... 後按延... 利發侯斤... 勒以爲別部... 乃侯利... 字也... 音煙者或音支

二月新作輿服儀衛

詔牛弘等議定輿服儀衛制度以何稠為太府少... 卿使之營造送江都稠參會古今多所損益... 書上日月星辰皮弁以漆沙為之大抵務為華盛... 稱上意課州縣送羽毛民求捕之殆無遺類鳥... 有高樹踰百尺上有鶴巢民欲取之不可乃伐其... 根鶴恐殺其子自拔髦毛投於地時人或稱以... 瑞役五十萬人... 費以鉅億計... 質實冠冕王者... 書法譏靡也

夏四月還東京考異

二月上癸江都四月自伊闕陳法駕備千乘萬騎... 入東京御端門大赦制五品已上文官乘車在朝

夏四月還東京考異事不書帝此上有異事當書帝

并服佩王武官馬加珂戴幘服
袴褶文物之盛近世莫及也
何反爾雅翼云具大者珂黃黑色其骨白可以飾
馬又韓文詩送以紫玉珂注引服虔通俗文曰勒
飾曰珂戴幘說文髮有中曰幘戴者以幘覆髻也
服袴褶服被服也著之也
也

六月以楊素為司徒

秋七月制百官不得計考增級

制百官不得計考增級必有德行功能灼然顯著
者進擢之帝頗惜名位羣臣當進職者多令兼假
而已時牛弘為吏部尚書不得專行其職蘇威守
文述張瑾虞世基裴蘊裴矩參掌選事而與奪之
筆世基獨專之受納賄賂黜陟任意胡氏曰楊素
非能慎也侍貪欲忌克又有輕視士大夫之

心以謂莫足以當我之爵爾當是之時與唐才
智之臣皆如金玉隱於沙石之中而莫之知也
其新惜名器抵足以
失士為他人之資耳

太子昭卒

元德太子昭自長安來朝數月將還欲乞少留不
許拜請無效昭體素因致疾薨帝哭之數聲而
止尋奏擊伎
無異平日也

楊素卒

越公楊素雖有大功行高帝所猜忌外示殊禮內
情甚薄太史言隋公野有大喪乃從素為楚公意
楚與隋同分次以野素寢疾不
青餌藥謂弟約曰我豈頗更結邪
帝乾祐元年

書法 揚素何司 越公也 然則焉為不具官 諸臣所卒無不 是至唐卒不書官者四十 書官為取矣 白 是至唐卒不書官者四十 官素預聞乎故乃裁君之 發明以不書 耳何卒者皆書其爵如文 之凡大臣無 而書卒者皆書其爵如文 牛弘內史令 心壽納言楊庭之類是以揚 為上公百建 子宗之策寢殿之變素實為 日正其試逆 息耳然則何以書卒曰削官 天誅不赦之 書卒以譏隋人之失賊二者 楊素之罪惡 此綱目之意也亦春秋之法 行而不相悖 此綱目之意也亦春秋之法 也

八月封孫倓為王 王侗為越王 侑為代王 皆昭之 子也

冬十月置洛口回倉 倉 南原上城周二十餘里穿三千 置洛口倉於鞏 西北七里城周二十餘里穿三千 鞏置回洛倉於 考反今河南府鞏縣是周考王 八千石 集覽 封 周惠公 即此

徵天下散樂 魚龍山車等戲謂之散樂 周宣 帝時鄭譯奏徵 又高祖受禪牛弘定樂悉放 之帝以啓民可 得入朝欲以富樂誘之太常 卿裴蘊希旨奏 八下前前世樂家子弟皆為 其六品以下至 八有善音樂者皆直太常帝 之於四方散樂 八集東京課京兆河南製其 錦綵為空帝多 篇今樂正 白明達造新聲 音極哀然

冬十月置洛口回倉 倉 南原上城周二十餘里穿三千 置洛口倉於鞏 西北七里城周二十餘里穿三千 鞏置回洛倉於 考反今河南府鞏縣是周考王 八千石 集覽 封 周惠公 即此

徵天下散樂 魚龍山車等戲謂之散樂 周宣 帝時鄭譯奏徵 又高祖受禪牛弘定樂悉放 之帝以啓民可 得入朝欲以富樂誘之太常 卿裴蘊希旨奏 八下前前世樂家子弟皆為 其六品以下至 八有善音樂者皆直太常帝 之於四方散樂 八集東京課京兆河南製其 錦綵為空帝多 篇今樂正 白明達造新聲 音極哀然

徵天下散樂 魚龍山車等戲謂之散樂 周宣 帝時鄭譯奏徵 又高祖受禪牛弘定樂悉放 之帝以啓民可 得入朝欲以富樂誘之太常 卿裴蘊希旨奏 八下前前世樂家子弟皆為 其六品以下至 八有善音樂者皆直太常帝 之於四方散樂 八集東京課京兆河南製其 錦綵為空帝多 篇今樂正 白明達造新聲 音極哀然

徵天下散樂 魚龍山車等戲謂之散樂 周宣 帝時鄭譯奏徵 又高祖受禪牛弘定樂悉放 之帝以啓民可 得入朝欲以富樂誘之太常 卿裴蘊希旨奏 八下前前世樂家子弟皆為 其六品以下至 八有善音樂者皆直太常帝 之於四方散樂 八集東京課京兆河南製其 錦綵為空帝多 篇今樂正 白明達造新聲 音極哀然

徵天下散樂 魚龍山車等戲謂之散樂 周宣 帝時鄭譯奏徵 又高祖受禪牛弘定樂悉放 之帝以啓民可 得入朝欲以富樂誘之太常 卿裴蘊希旨奏 八下前前世樂家子弟皆為 其六品以下至 八有善音樂者皆直太常帝 之於四方散樂 八集東京課京兆河南製其 錦綵為空帝多 篇今樂正 白明達造新聲 音極哀然

徵天下散樂 魚龍山車等戲謂之散樂 周宣 帝時鄭譯奏徵 又高祖受禪牛弘定樂悉放 之帝以啓民可 得入朝欲以富樂誘之太常 卿裴蘊希旨奏 八下前前世樂家子弟皆為 其六品以下至 八有善音樂者皆直太常帝 之於四方散樂 八集東京課京兆河南製其 錦綵為空帝多 篇今樂正 白明達造新聲 音極哀然

三年春正月突厥啓民

可汗來朝

啓民請襲冠帶帝大悅

三月殺故長寧王儼及其第七人

其第七人

初雲定與坐眉事太
上即位多所營造開
宇文述用事定興以
之薦使監造兵器因
心而不得官者為長
用物何不勸上殺之
殺長寧王儼及其七
城王恪之妃柳氏自

勇與妻子皆沒官為奴
有巧思召之使典其事
珠絡帳路述述大喜
兄弟未死耳定與曰
因奏請處分帝然之
集覽巧思智思機巧
也思想吏反乃
於猶子然亦不可盡
及其第七人以甚之

夏四月詔頒新律

帝以高祖末年法令峻刻詔牛弘等造大業律
入篇頒行之民又嚴嚴刻喜於寬政其後征役繁
典民不堪命有司臨時迫脅以求濟事不復用
令矣旅騎尉劉炫預修律令弘嘗從容問炫曰國
禮士多而府史少今令史百倍於前減則不濟其
故何也炫曰古人委任責成歲終考其殿最案不
重校文不繁悉府史之任掌要目而已今之文簿
恒慮覆治若綴練不密則萬里追證百年舊案故
諺云老吏抱案死事繁政弊穢此之由也炫曰往
之時令史從容而已今則不逮寧處向也炫曰往
者州唯置綱紀郡置守丞縣置令而已其餘具僚
則長官自辟今大小之官悉由吏部纖介之迹皆
屬考功省官不如省官事不肖而望
從容其可得乎弘善其言而不能
注見漢武帝元鼎四年守丞守始究反請侯
為天子守土故蕭守丞守丞守丞守丞守丞守丞
丞尉掌佐守
典武職甲卒

改州為郡

更定官制

改工在國門下官為大夫置殿內省與尚書門下
內史參書為五省增為者司錄臺與御史為三臺
分太府寺置少府監與長官國子將作都水為五
監又增改左右兩衛等為十六府廢伯子男爵

六月詔為高祖建別廟

初高祖受禪惟立四親廟同殿異室而已帝即位
命有司議七廟之制禮部侍郎許善心等奏請為
太祖高祖各立一殿準周文武二桃與始祖而三
餘並分室而祭從迭毀之法帝謂柳詵曰今始祖
及三桃已具後世子孫處朕何所乃詔為
高祖建別廟既而方事巡幸竟不果立
之制記王制篇天子七廟三昭三穆與太祖之廟
而七注此周制七者太祖及文武王之桃與親

集覽

廟四太祖后稷也祭法篇天下有王設廟桃壇
而祭之乃為親疏多少之數是故王立七廟二
一壇曰考廟曰王考廟曰皇考廟曰顯考廟曰祖
考廟皆月祭之周文武二桃記祭法篇遠祖為桃
有二桃享嘗乃止注桃之言超也超然上去意也
天子遷廟之主以昭穆合藏於二桃之中享嘗謂
四時之祭桃他遠反孔子家語曰遠祖為桃有二
桃焉古者祖有功宗有德謂之祖宗也其廟皆不
毀王肅注桃遠意也親盡為桃二桃者高祖及父
母祖是也祖宗者不毀之名其廟有功德者謂之祖
至於周文王是也德者謂之宗武王是也二廟
自有祖宗乃謂之二桃又以為配食明堂之名亦
可謂達虛指失其事也迭毀之法案漢成帝崩哀
帝即位孔光何武等奏言迭毀之法不當以時定臣
請與羣臣雜議於是彭宣等議以為不當以時定臣
五廟而迭毀後雖有賢君猶不得與祖宗並列子
孫雖欲襲太顯揚而文之鬼神不得與祖宗並列
烈親盡則宜毀王舜劉歆議曰禮記曰天子三昭

三穆與太祖之朝而七七者其正法數可常數者也宗不在此數中宗變也苟有功德則宗之不可預為設數迭毀之禮自有常法無殊功異德固以親疏相推及至祖宗之序多少之數經傳無明文至尊至重難以疑文虛說定也自貢禹建迭毀之議惠景及太上寢園廢而為虛失禮意矣詳見前書帝玄成傳稱置史昭通鑑釋文曰誓音辯字本作辯北齊時星俗多作偽字始以巧言為辯至此又訛其字

書法

立願未有書詔者此其書詔何未果立也末果立則何以書罪廣也高祖喪以三年也廟制未定許善心之議善矣憂後世之毀及已也遂有此詔焉又以方事巡幸竟不果立其慢宗廟而自尊太甚矣故綱目書罪之

帝北巡次榆林郡啓民可汗及義成公主來朝吐谷

渾高昌皆入貢

車駕北巡發河北十餘郡丁男鑿太行山達十并州以通馳道幽門太守立和獻食甚精至馬邑太守楊廓獨無所獻帝不悅以和為博陵人守使廓至博陵勸之由是所至獻食競為豐侈至榆林遂欲出塞難兵徑突厥中恐啓民驚懼先遣長孫晟諭旨使民奉詔因召所部酋長咸集晟欲令啓民親臨示諸部以明威重乃指帳前草曰此根大香啓民遷嗅之曰香不至也晟曰天子行幸所

不虞... 何法... 並在... 兵出... 追奔... 拜法... 千人... 上... 集覽... 書法... 統志云紫... 河在大同府... 統志云紫... 河在大同府... 統志云紫... 河在大同府...

秋七月築長城

詔發丁男百餘萬築長城西距榆林東至紫河蘇威諫不聽... 城西北四百里古豐州西北黑... 峽口發源西流至雲內州東合黑河

太常卿高頴尚書宇文弼光祿大夫賀若弼

帝之徵散樂也太常卿高頴諫不聽退謂丞李... 曰周天元以好樂而亡殷鑒不遠安可復爾... 帝遇啓民過厚謂何稠曰此庸頴知中國虛實山... 川險易恐恣後患宇文弼弼亦諫曰天... 今方之不亦甚乎賀若弼朝政省殺之類有文武大... 爲人所奏帝以爲誹謗朝政省殺之類有文武大... 畧明達世務以天下爲已任餘威... 新輔擒虎皆頴所... 周天元此周宣帝也傳位於太子自稱天元皇... 帝殷鑒不遠殷鑒不遠言夏之... 詩蕩篇末章曰殷鑒不遠在夏... 言殷之明鏡不遠也夏以禹... 在前此詩爲... 厲王欲王之... 發明... 不能引身而去乃相與... 者事... 之宜

矣然自燔而言則亦不可故皆書殺而不天其宮下書殺薛道衡亦然

免內史令蕭瑄僕射蘇威等

宗以皇后故甚見寵重與實若鴻善彌既誅又有童謡曰蕭蕭亦復起帝由是忌之遂廢於家未幾而卒蘇威以謝罪長城故威亦坐免

八月帝至金河幸啓民可汗帳

車駕發榆林甲上五十餘萬旌旗輜重千里不絕令宇文暹等造觀風行殿容數百人離合爲之下施輪軸又作行城周二千步以布木板擗擗悉備胡人驚以爲神帝幸啓民廬帳啓民捧觴上壽王侯以下袒割帳前莫敢仰視帝大悅賦詩曰呼韓頓頽至屠耆接踵來何如漢天子空上單于臺皇太后亦幸義成公

集覽

屠耆匈奴單于之號也名曰逐王薄胥堂案匈奴傳其俗

謂費曰屠耆故常以太子爲左屠耆王屠直於反者音祁徐廣曰屠一作諸

質實

一統志云

遷至太原營晉陽宮

宴御史大夫張衡宅

帝上太行開直道九十里

質實

一統志云濟源縣

至濟源幸衡宅留宴三日

更名軹東周爲畿內地春秋時爲晉戰國時屬魏秦漢皆爲軹縣地隋折置濟源縣以濟水發源故名唐初置西濟州後省州以軹爲懷州後屬孟州宋金因之元初改軹爲原州尋廢州復爲縣屬孟州

遂還東都

改屬懷慶府

州本軹因之

層城九重面有九井以王為標旁有五門明獸守
之史記夏高本起言河出崑崙崑崙注鄧展曰漢以窮
河源於河見崑崙崑崙乎離經道吾道天崑崙崑崙
脩遠以周流朱文公辯證曰傳云崑崙崑崙崑崙
出其東南陔河水出其東北陔洋水出其西北陔
弱水出其西南陔准河水入東海其三水入南海
後漢書注崑崙崑崙在肅州酒泉縣西南山有崑崙
體故亦名之二亦之語似得其實據大荒經崑崙
在西域一名阿博達山河水所出亦非妄語然云
去高高山五萬里則恐不能如是之遠也當更考
之質實使司城西南二百里禹貢西傾因拒
是來即此崑崙山名在外夷西蕃朶甘衛東北
名亦耳麻不刺山極高峻雪至夏不消綿亘五百
餘里黃河經其南又陝西行都指揮使司肅州衛
城西南二百五十里南有崑崙山與甘州山相連
其顛峻極經夏積雪不消世呼為雪山後涼張駿
時酒泉太守馬岌言周穆王見西王母於此宜立

王母祠
駿從之

書法

特筆也其特筆何罪開邊也自矩首唱
矣是故經畧一也書經畧中原所以予晉人之
規復康帝元年書經畧西域所以罪隋人之開

嫌同辭

發明

而場之不道固無可救之理然所以盈其罪
者其罪至他日高麗之罪亦知有借其端也

明... 卷之...

通鑑綱目卷之三十六終

通鑑綱目卷之三十六終

